
－ダイキン「第12回 現代人の空気感調査」－
総合報告書

1万人アンケート調査結果

平成19年12月

ダイキン工業株式会社

<目次>

I. 調査概要	1
1. 調査目的	2
2. 調査の実施要領	2
3. 分析対象サンプルの基本属性	4
II. 調査結果	7
1. 「空気」を意識する度合い	8
2. 「空気」を意識するとき	10
(1) 1日のうちで「空気」を特に意識するとき	10
(2) 1年のうちで「空気」を特に意識する時期	12
3. 心地よい空気が流れていると思う場所	14
(1) 国内	14
(2) 海外	18
4. 最も空気が心地よいと感じる気温と湿度	21
(1) 気温	21
(2) 湿度	23
5. 「空気・水・安全」を日常生活のなかで意識する度合い	25
(1) 「空気」と「水」で意識することが多い方	25
(2) 「空気」と「安全」で意識することが多い方	27
(3) 「水」と「安全」で意識することが多い方	29
6. 「空気・水・安全」のコスト意識	32
(1) 「空気」のコスト意識	32
(2) 「水」のコスト意識	34
(3) 「安全」のコスト意識	36
7. 「空気・水・安全」の値段	39
(1) 「おいしい・快適な空気」1か月の値段	39
(2) 「おいしい水」1か月の値段	41
(3) 「安全」1か月の値段	43
8. 「空気・水・安全」のなかで最も心配なもの	45
9. 「空気・水・安全」の気がかりな点	47
(1) 「空気」の気がかりな点	47
(2) 「水」の気がかりな点	49
(3) 「安全」の気がかりな点	51

I . 調査概要

1. 調査目的

ダイキン工業では、“空気”にこだわり、また空調の技術を進化させてきた空調のトップメーカーとして、日頃あまり意識されてこなかった“空気”について、より多くの方々に関心を持っていただきたいと考え、2002年から“空気”に関する現代人の意識を探るための「現代人の空気感調査」を実施してきました。

12回目となる今回の調査は、5年前に実施した第1回調査<1万人が選んだ空気の三大理想郷編>及び第2回調査<日本人の3大無料(タダ)モノ編>と同じ質問項目を用いて現代人の空気に対する意識調査を行い、5年前の調査結果と比較することで、この5年間に日本人の空気に対する意識がどのように変化したのかを浮き彫りにすることを目的に実施しました。

2. 調査の実施要領

(1) 調査方法

インターネット調査：

〔当社ホームページ上に「アンケートコーナー」を設け、自由に回答していただきました。〕

(2) 調査時期

2007年10月6日(土)～10月31日(水)

(3) 質問項目

《第1回調査と同じ項目》

- ・日頃「空気」をどの程度意識しているか
- ・「空気」を意識するのはどういう時か(1日のうちのいつ、1年のどの時期)
- ・「心地よい空気」が流れていると思う場所“空気の理想郷”(国内、海外)
- ・「空気」が心地よいと感じる気温と湿度

《第2回調査と同じ項目》

- ・「空気、水、安全」のうち日常生活のなかで意識する度合いが高いもの
- ・「空気、水、安全」に対してコストをどの程度意識するか
- ・「空気、水、安全」の中で将来最も心配なもの、及びそれぞれの心配な点
- ・「空気、水、安全」を得るために支払ってもよいと思う金額

《回答者の基本属性》

- ・性別、年代、職業、未既婚、住居形態、家族構成

(4) 応募総数

23,612 件

《内訳》

	総計	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
合計	23,612	335	4,422	9,401	5,663	2,790	1,001
男性	10,420	144	1,277	3,277	3,170	1,785	767
女性	13,192	191	3,145	6,124	2,493	1,005	234

(5) 分析サンプル数

10,000 件

第2回調査の性・年齢別サンプル構成比率に則して分析サンプル数 10,000 名を配分し、端数を調整してセグメントごとのサンプル数を設定しました。
その上で、全応募者の中からセグメントごとに等間隔抽出法でランダムに分析対象サンプルを抽出しました。

《サンプル配分》

	総計	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上
合計	10,000	250	3,050	3,500	2,100	800	300
男性	5,000	100	1,000	1,700	1,400	600	200
女性	5,000	150	2,050	1,800	700	200	100

3. 分析対象サンプルの基本属性

上段：実数、下段：比率（単位＝％）

■ 職業

		サンプル数	会社員・公務員	商工自営	自由業	専門職	パート・アルバイト	専業主婦	学生・生徒	無職	その他
全体		10000 100.0	5025 50.3	357 3.6	142 1.4	158 1.6	894 8.9	2057 20.6	630 6.3	471 4.7	266 2.7
性別	男性	5000 100.0	3608 72.2	299 6.0	98 2.0	78 1.6	157 3.1	－ －	299 6.0	315 6.3	146 2.9
	女性	5000 100.0	1417 28.3	58 1.2	44 0.9	80 1.6	737 14.7	2057 41.1	331 6.6	156 3.1	120 2.4
年代	10代・20代	3300 100.0	1355 41.1	31 0.9	26 0.8	67 2.0	323 9.8	678 20.5	618 18.7	123 3.7	79 2.4
	30代	3500 100.0	1926 55.0	80 2.3	51 1.5	55 1.6	315 9.0	869 24.8	9 0.3	108 3.1	87 2.5
	40代	2100 100.0	1289 61.4	137 6.5	52 2.5	26 1.2	178 8.5	308 14.7	3 0.1	58 2.8	49 2.3
	50代以上	1100 100.0	455 41.4	109 9.9	13 1.2	10 0.9	78 7.1	202 18.4	－ －	182 16.5	51 4.6

■ 未既婚

		サンプル数	未婚	既婚
全体		10000 100.0	3733 37.3	6267 62.7
性別	男性	5000 100.0	1921 38.4	3079 61.6
	女性	5000 100.0	1812 36.2	3188 63.8
年代	10代・20代	3300 100.0	2032 61.6	1268 38.4
	30代	3500 100.0	1122 32.1	2378 67.9
	40代	2100 100.0	439 20.9	1661 79.1
	50代以上	1100 100.0	140 12.7	960 87.3

■ 住居

		サンプル数	一戸建て持ち家	分譲集合住宅	一戸建て借家	賃貸集合住宅	社宅・寮	*持ち家	*借家	*一戸建て	*集合住宅
全体		10000 100.0	4690 46.9	1182 11.8	431 4.3	3271 32.7	426 4.3	5872 58.7	4128 41.3	5121 51.2	4453 44.5
性別	男性	5000 100.0	2558 51.2	613 12.3	192 3.8	1420 28.4	217 4.3	3171 63.4	1829 36.6	2750 55.0	2033 40.7
	女性	5000 100.0	2132 42.6	569 11.4	239 4.8	1851 37.0	209 4.2	2701 54.0	2299 46.0	2371 47.4	2420 48.4
年代	10代・20代	3300 100.0	1203 36.5	239 7.2	158 4.8	1496 45.3	204 6.2	1442 43.7	1858 56.3	1361 41.2	1735 52.6
	30代	3500 100.0	1509 43.1	444 12.7	176 5.0	1205 34.4	166 4.7	1953 55.8	1547 44.2	1685 48.1	1649 47.1
	40代	2100 100.0	1214 57.8	341 16.2	69 3.3	432 20.6	44 2.1	1555 74.0	545 26.0	1283 61.1	773 36.8
	50代以上	1100 100.0	764 69.5	158 14.4	28 2.5	138 12.5	12 1.1	922 83.8	178 16.2	792 72.0	296 26.9

■ 家族構成

		サンプル数	ひとり住まい	夫婦のみ	夫婦と子ども	父母と(子孫とも十祖)	その他
全体		10000 100.0	1297 13.0	1732 17.3	4342 43.4	870 8.7	1759 17.6
性別	男性	5000 100.0	813 16.3	731 14.6	2121 42.4	460 9.2	875 17.5
	女性	5000 100.0	484 9.7	1001 20.0	2221 44.4	410 8.2	884 17.7
年代	10代・20代	3300 100.0	645 19.5	511 15.5	1155 35.0	244 7.4	745 22.6
	30代	3500 100.0	396 11.3	670 19.1	1602 45.8	221 6.3	611 17.5
	40代	2100 100.0	176 8.4	259 12.3	1117 53.2	268 12.8	280 13.3
	50代以上	1100 100.0	80 7.3	292 26.5	468 42.5	137 12.5	123 11.2

■居住地

		サンプル数	北海道	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
全体		10000 100.0	415 4.2	69 0.7	54 0.5	62 0.6	206 2.1	66 0.7	92 0.9	171 1.7	108 1.1	118 1.2	586 5.9	530 5.3
性別	男性	5000 100.0	179 3.6	30 0.6	31 0.6	32 0.6	96 1.9	43 0.9	51 1.0	86 1.7	53 1.1	68 1.4	301 6.0	275 5.5
	女性	5000 100.0	236 4.7	39 0.8	23 0.5	30 0.6	110 2.2	23 0.5	41 0.8	85 1.7	55 1.1	50 1.0	285 5.7	255 5.1

		東京	神奈川	山梨	長野	新潟	静岡	愛知	岐阜	三重	富山	石川	福井
全体		1275 12.8	881 8.8	43 0.4	129 1.3	128 1.3	265 2.7	701 7.0	154 1.5	147 1.5	67 0.7	98 1.0	49 0.5
性別	男性	666 13.3	478 9.6	25 0.5	69 1.4	70 1.4	140 2.8	339 6.8	82 1.6	80 1.6	40 0.8	45 0.9	22 0.4
	女性	609 12.2	403 8.1	18 0.4	60 1.2	58 1.2	125 2.5	362 7.2	72 1.4	67 1.3	27 0.5	53 1.1	27 0.5

		滋賀	京都	奈良	和歌山	大阪	兵庫	岡山	広島	島根	鳥取	山口	香川
全体		122 1.2	247 2.5	115 1.2	85 0.9	900 9.0	506 5.1	150 1.5	223 2.2	56 0.6	41 0.4	88 0.9	73 0.7
性別	男性	59 1.2	111 2.2	62 1.2	45 0.9	432 8.6	266 5.3	69 1.4	103 2.1	23 0.5	21 0.4	50 1.0	35 0.7
	女性	63 1.3	136 2.7	53 1.1	40 0.8	468 9.4	240 4.8	81 1.6	120 2.4	33 0.7	20 0.4	38 0.8	38 0.8

		徳島	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	大分	宮崎	熊本	鹿児島	沖縄
全体		55 0.6	101 1.0	34 0.3	344 3.4	38 0.4	60 0.6	62 0.6	65 0.7	87 0.9	72 0.7	62 0.6
性別	男性	25 0.5	49 1.0	20 0.4	157 3.1	15 0.3	27 0.5	20 0.4	30 0.6	32 0.6	30 0.6	18 0.4
	女性	30 0.6	52 1.0	14 0.3	187 3.7	23 0.5	33 0.7	42 0.8	35 0.7	55 1.1	42 0.8	44 0.9

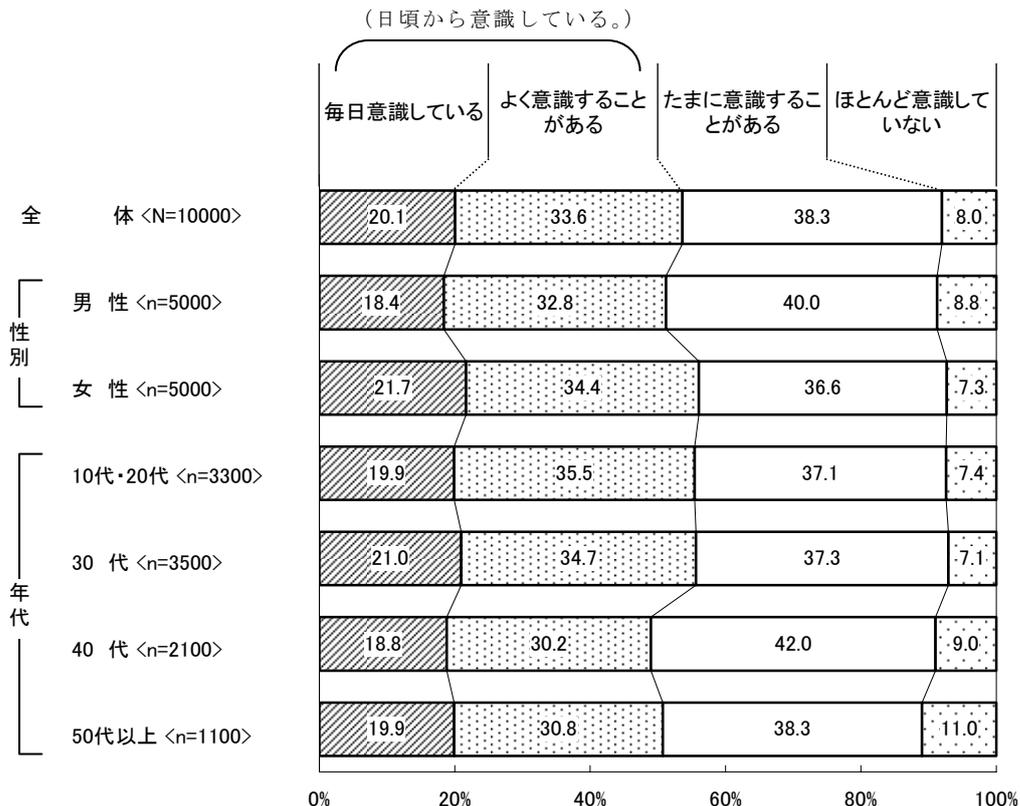
II. 調査結果

1. 「空気」を意識する度合い

「毎日意識している」(20.1%)が2割、「よく意識することがある」(33.6%)が3割強と、半数強が“日頃から意識している”(53.7%)。「たまに意識することがある」(38.3%)も4割弱で、「ほとんど意識していない」(8.0%)は1割弱。

◆ “日頃から意識している”は性別では<女性>が<男性>を、年代別では<30代><10代20代>が<40代><50代>をやや上回る。

図1. 日頃「空気」をどの程度意識しているか



日頃、空気をどの程度意識しているかについて聞きました。

「毎日意識している」(20.1%)が2割、「よく意識することがある」(33.6%)が3割強となっており、両者をあわせると“日頃から意識している”(53.7%)との回答が半数強を占めます。また、「たまに意識することがある」(38.3%)も4割弱を占めており、「ほとんど意識していない」(8.0%)は1割弱にすぎません。

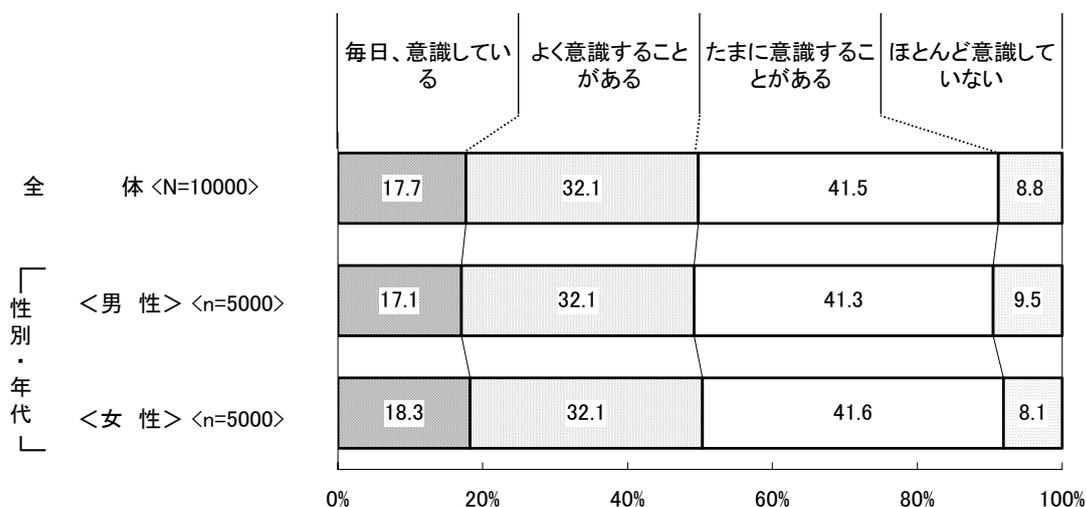
《属性別》

性別に見ると、「毎日意識している」「よく意識することがある」ともに<女性>(21.7%、34.4%)が<男性>(18.4%、32.8%)を上回っています。“日頃から意識している”は女性の方がやや高いようです。

年代別に見ると、“日頃から意識している”は<30代>(55.7%)、<10代20代>(55.4%)が<40代>(49.0%)、<50代以上>(50.7%)をやや上回っています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年6月：第1回空気感調査結果より)



5年前の調査では、「毎日意識している」(17.7%)が2割弱、「よく意識することがある」(32.1%)が3割強となっており、「日頃から意識している」(49.8%)はほぼ半数でした。さらに、「たまに意識することがある」(41.5%)が4割強を占める一方、「ほとんど意識していない」(8.8%)は1割弱となっていました。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「毎日意識している」「よく意識することがある」(各+2ポイント)がそれぞれほんのわずかつ増加しているのに対して、「たまに意識することがある」(-3ポイント)はわずかに減少しています。「ほとんど意識していない」はほとんど変わっていません。この5年間で空気を意識する傾向はわずかながら高まっているようです。

さらに、年代別に比較すると、5年前の調査では女性では「毎日意識している」は<50代以上>に多いという傾向を示していましたが、今回の調査では<30代>の方が多く、<50代以上>は最も少なくなっています。

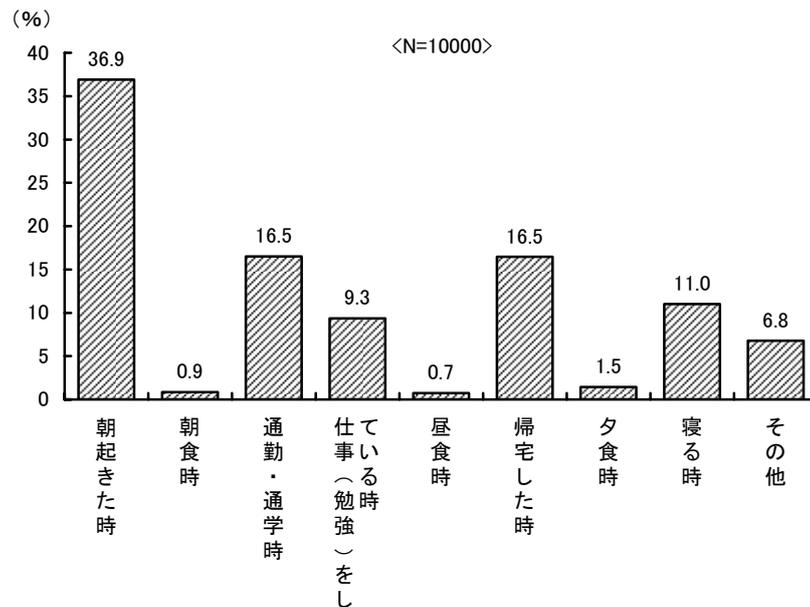
2. 「空気」を意識するとき

(1) 1日のうちで「空気」を特に意識するとき

「朝起きた時」(36.9%)が最も多く、「通勤や通学時」「帰宅した時」(各16.5%)、「寝る時」(11.0%)などが続く。

◆「朝起きた時」は性別では<女性>(39.2%)、年代別では<50代以上>(50.5%)、職業別では<専業主婦>(50.3%)、未既婚別では<既婚者>(41.2%)に特に多い。

図2. 1日のうちで「空気」を特に意識するとき



性別	男性 <n=5000>	34.6	1.0	19.4	12.1	0.6	13.6	1.3	11.5	5.9
	女性 <n=5000>	39.2	0.7	13.6	6.5	0.9	19.3	1.6	10.5	7.6
年代	10代・20代 <n=3300>	31.9	0.9	20.2	8.9	0.9	16.8	1.2	11.4	7.7
	30代 <n=3500>	36.1	0.6	14.8	9.0	0.7	18.3	1.1	12.8	6.5
	40代 <n=2100>	38.9	0.7	16.1	10.3	0.5	16.2	1.9	9.6	5.8
	50代以上 <n=1100>	50.5	1.9	11.5	9.7	0.7	10.0	2.2	6.9	6.6

空気をどういう時に意識するのかを聞きました。

まず、1日のうちのどういう時に意識するかについては、「朝起きた時」(36.9%)が最も多く、次いで「通勤や通学時」「帰宅した時」(各16.5%)の順となっています。以下、「寝る時」(11.0%)、「仕事(勉強)をしている時」(9.3%)などが続きます。

《属性別》

性別に見ると、「朝起きた時」「帰宅した時」は<女性>(39.2%、19.3%)が、「通勤や通学時」「仕事(勉強)をしている時」は<男性>(19.4%、12.1%)がやや上回っています。

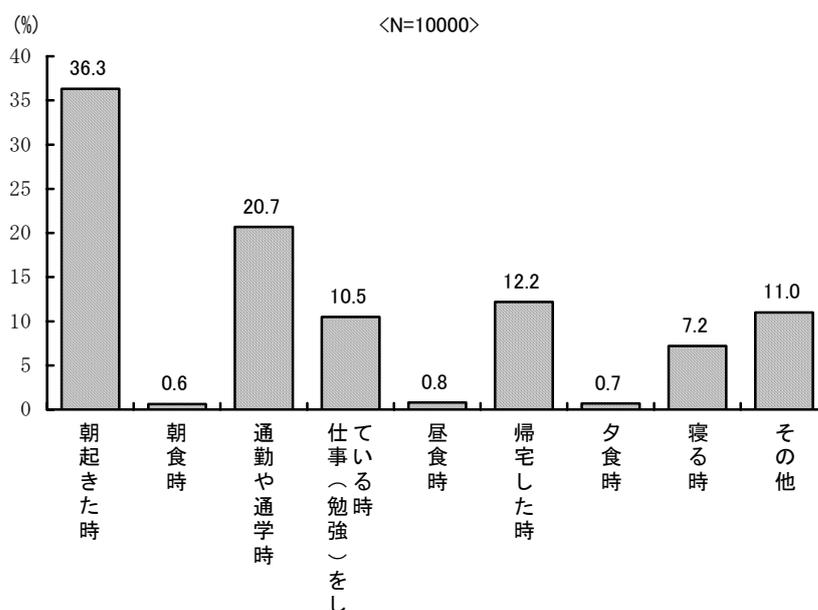
年代別に見ると、「朝起きた時」は<50代以上>(50.5%)では半数があげており、他の年代を大きく上回っています。また、「通勤や通学時」は<10代20代>(20.2%)が他の年代を上回っています。

そのほか、「朝起きた時」は、職業別に見ると＜専業主婦＞（50.3%）が他の職業を、未既婚別に見ると＜既婚者＞（41.2%）が＜未婚者＞（29.6%）を上回っています。

また、住居地別に見ると、＜四国＞＜甲信越＞＜東北＞は「朝起きた時」（44.1%、42.0%、40.8%）が他の地域を上回っているのに対して、＜東京＞＜南関東（東京を除く）＞＜近畿＞の“大都市圏”は「通勤・通学時」（20.6%、19.6%、18.3%）が他の地域を上回っています。

＜5年前の調査結果との比較＞

（02年6月：第1回空気感調査結果より）



性別	男性<N=5000>	33.7	0.7	24.3	12.8	0.8	9.4	0.7	7.6	10.1
女性<N=5000>	39.0	0.6	17.0	8.2	0.7	15.0	0.8	6.9	11.9	

5年前の調査でも「朝起きた時」（36.3%）が3割強で最も多く、次いで「通勤や通学時」（20.7%）が2割、「帰宅した時」（12.2%）、「仕事（勉強）をしている時」（10.5%）が1割強となっており、そのほかはすべて1割未満でした。

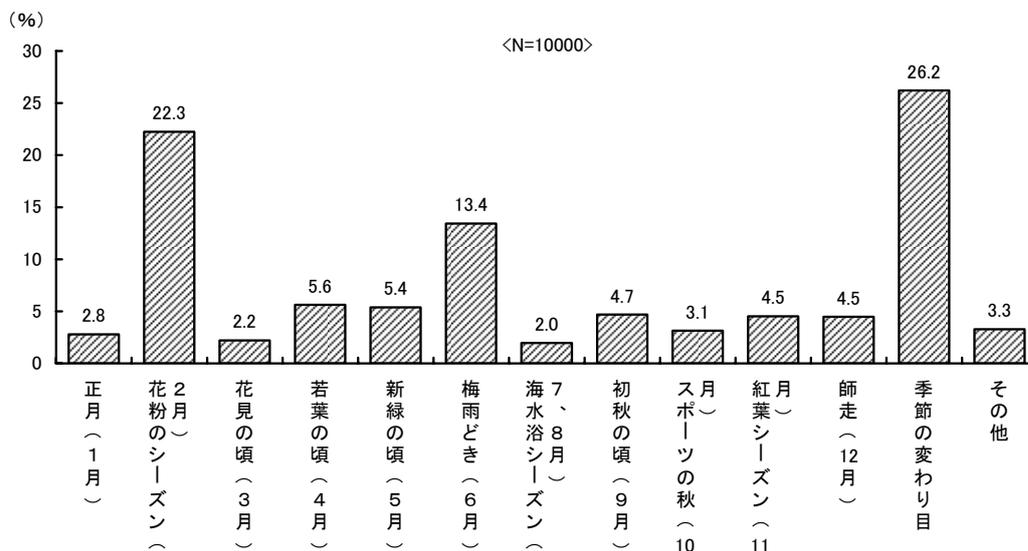
この時の調査結果と今回の調査結果を比較しても、上位項目には同様の場面があがっていますが、その割合は「通勤や通学時」がやや下がり、「帰宅した時」が上がっています。

さらに、性別に比較すると、「朝起きた時」「帰宅した時」は5年前の調査でも今回の調査でも＜女性＞が＜男性＞を上回っているという傾向は変わっていません。

(2) 1年のうちで「空気」を特に意識する時期

「花粉のシーズン（2月）」（22.3%）が最も多く、次いで「梅雨どき（6月）」（13.4%）。
 「季節の変わり目」（26.2%）も多い。
 ◆＜女性＞は「季節の変わり目」（30.1%）が特に多く＜男性＞（22.3%）を上回る。

図 3. 1年のうちで「空気」を特に意識する時期【2つまで】



性別	男性 <n=5000>	3.8	23.8	2.7	6.5	6.8	10.7	2.5	4.5	3.3	5.1	4.7	22.3	3.2
	女性 <n=5000>	1.7	20.7	1.7	4.7	4.0	16.1	1.5	4.8	2.9	4.0	4.3	30.1	3.3
年代	10代・20代 <n=3300>	2.3	22.8	2.0	4.9	3.2	13.8	2.0	4.8	3.4	4.5	6.5	26.8	2.8
	30代 <n=3500>	2.4	23.2	2.3	4.8	4.5	14.3	1.9	4.2	2.7	4.2	4.4	27.8	3.3
	40代 <n=2100>	3.8	21.9	2.1	6.5	7.0	12.8	2.3	4.3	3.4	4.6	2.7	25.0	3.6
	50代以上 <n=1100>	3.7	18.3	2.6	8.9	11.7	10.5	1.3	6.5	3.3	5.5	2.3	21.6	3.9

次に、1年のうちのどの時期に特に意識するかについて見ると、月で最も多いのは「花粉のシーズン（2月）」（22.3%）で他を大きく上回っています。次いで「梅雨どき（6月）」（13.4%）が多くなっていますが、それ以外に際立っている月はありません。また、月ではありませんが「季節の変わり目」（26.2%）が非常に多くあげられています。

＜属性別＞

性別に見ると、＜女性＞は「季節の変わり目」（30.1%）がとりわけ多く、＜男性＞（22.3%）を上回っています。

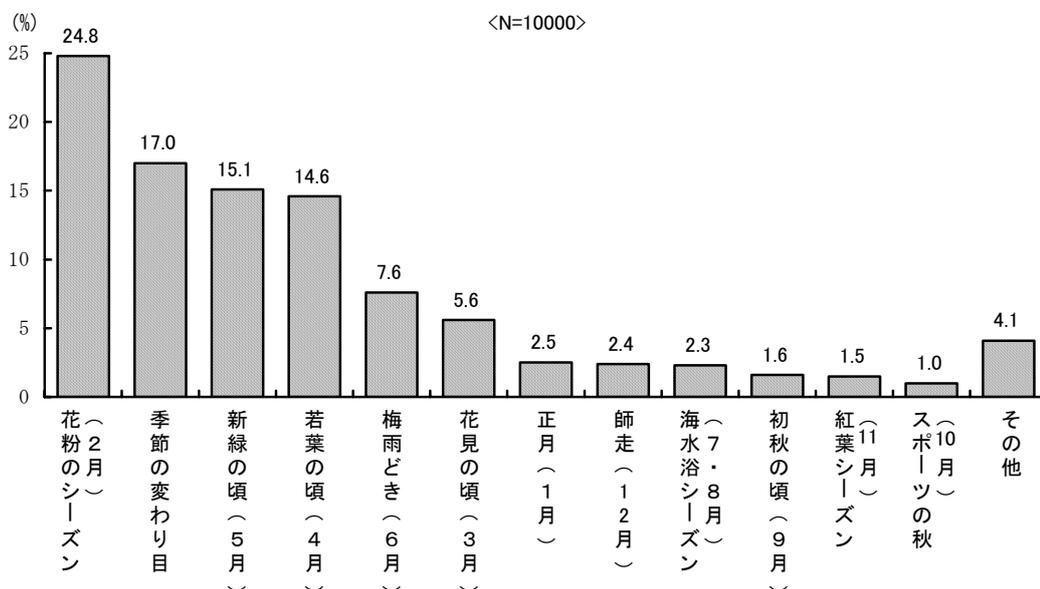
年代別に見ると、「季節の変わり目」「花粉のシーズン（2月）」「梅雨どき（6月）」の上位項目はいずれも＜30代＞（27.8%、23.2%、14.3%）が最も多く、次いで＜10代・20代＞（26.8%、22.8%、13.8%）、以下＜40代＞（25.0%、21.9%、12.8%）、＜50代以上＞（21.6%、18.3%、10.5%）の順となっています。

職業別に見ると、＜専業主婦＞は「梅雨どき（6月）」（19.3%）が他の業種を上回っています。

居住地別に見ると、花粉症がないといわれている＜北海道＞は「花粉のシーズン（2月）」（7.2%）が他の地域を下回り、「季節の変わり目」（37.1%）が大きく上回っています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年6月：第1回空気感調査結果より)



5年前の調査では、「花粉のシーズン (2月)」(24.8%) が2割強を占め最も多く、「新緑の頃 (5月)」(15.1%)、「若葉の頃 (4月)」(14.6%) が1割強で続いていました。また、「季節の変わり目」(17.0%) も2割弱と少なくありませんでした。

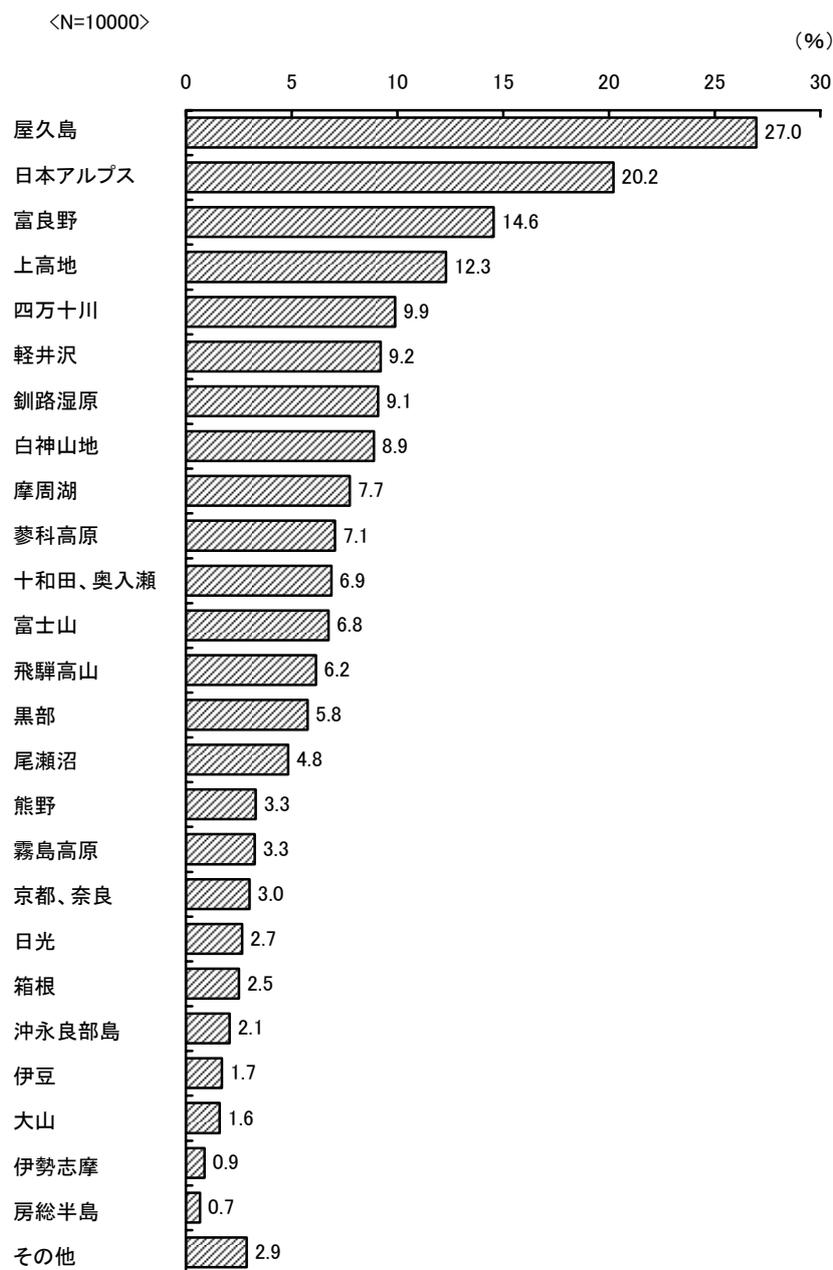
この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「花粉のシーズン (2月)」が多い状況は変わりませんが、「新緑の頃 (5月)」、「若葉の頃 (4月)」に代わって「梅雨どき (6月)」が多くなっています。また、「季節の変わり目」もさらに増えています。

3. 心地よい空気が流れていると思う場所

(1) 国内

「屋久島」(27.0%)、「日本アルプス」(20.2%)、「富良野」(14.6%)がトップ3。
 ◆第1位、2位の「屋久島」「日本アルプス」は男女差がないが、第3位は<男性>が「上高地」、<女性>が「富良野」、第4位は<男性>が「富良野」、<女性>が「上高地」と男女で逆転。

図4. 国内で心地よい空気が流れていると思う場所【2つまで】



心地よい空気が流れている場所はどこだと思いか聞きました。

まず、国内では、第1位は「屋久島」(27.0%)、第2位は「日本アルプス」(20.2%)、

第3位は「富良野」(14.6%)となっています。以下、「上高地」(12.3%)、「四万十川」(9.9%)、「軽井沢」(9.2%)、「釧路湿原」(9.1%)、「白神山地」(8.9%)、「摩周湖」(7.7%)、「蓼科高原」(7.1%)、「十和田湖、奥入瀬」(6.9%)などが続きます。

《属性別》

● 性別

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	屋久島 23.0%	日本アルプス 21.3%	上高地 12.9%	富良野 10.9%	釧路湿原 10.8%
女性	屋久島 30.9%	日本アルプス 19.1%	富良野 18.2%	上高地 11.7%	軽井沢 11.2%

第1位、第2位の「屋久島」、「日本アルプス」は男性と女性で差がありませんが、＜男性＞では第3位に「上高地」、第4位に「富良野」があげられているのに対して、＜女性＞では第3位に「富良野」、第4位に「上高地」があげられており、男性と女性で「上高地」と「富良野」が逆転しています。

● 性別・年代別

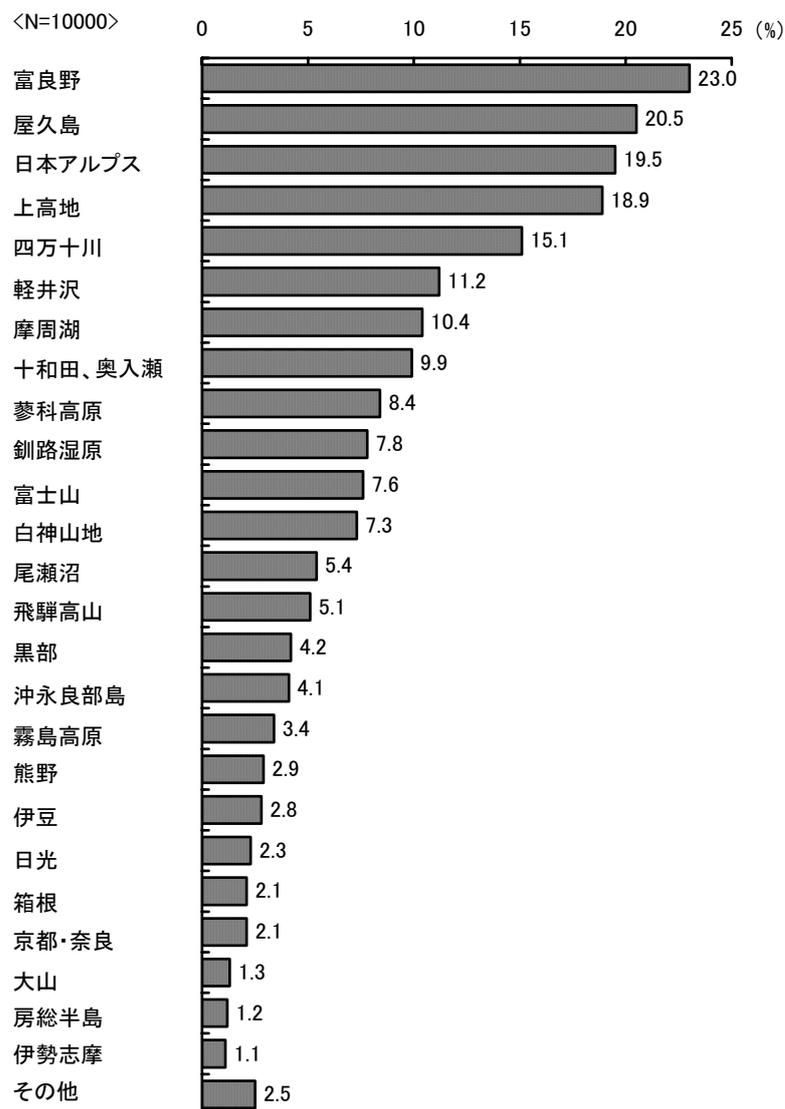
		1位	2位	3位	4位	5位
男 性	10・20代	屋久島 22.7%	日本アルプス 22.3%	軽井沢 12.6%	富良野 12.2%	四万十川 10.3%
	30代	屋久島 23.1%	日本アルプス 21.0%	上高地 12.8%	四万十川 11.2%	富良野 10.8%
	40代	屋久島 26.2%	日本アルプス 22.4%	上高地 15.1%	富良野 12.0%	白神山地 釧路湿原 11.8%
	50代以上	日本アルプス 18.9%	屋久島 17.6%	上高地 16.1%	白神山地 14.8%	釧路湿原 12.9%
女 性	10・20代	屋久島 28.5%	日本アルプス 19.4%	富良野 19.2%	軽井沢 15.2%	—
	30代	屋久島 33.3%	日本アルプス 19.3%	富良野 18.3%	上高地 14.0%	四万十川 10.1%
	40代	屋久島 34.0%	富良野 17.3%	日本アルプス 17.1%	上高地 14.7%	蓼科高原 10.9%
	50代以上	屋久島 27.0%	日本アルプス 20.3%	上高地 19.7%	蓼科高原 12.7%	富良野 12.3%

※「—」は、10%未満のため掲載せず

男性・女性ともほとんどの年代で第1位に「屋久島」、第2位に「日本アルプス」があげられています。＜男性・50代以上＞は第1位と第2位が逆に、＜女性・40代＞は第2位に「富良野」があげられ、「日本アルプス」は第3位となっているだけです。また、第3位は男性では「上高地」が＜10代20代＞を除いてあげられているのに対して、女性では「富良野」が上位にあがっています。「富良野」は既述のとおり5年前の調査で第1位だった場所ですが、今なお女性に人気が高いようです。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年6月：第1回空気感調査結果より)



5年前の調査では、第1位は「富良野」(23.0%)で、以下「屋久島」(20.5%)、「日本アルプス」(19.5%)、「上高地」(18.9%)、「四万十川」(15.1%)と続きトップ5となっていました。さらに、「軽井沢」(11.2%)、「摩周湖」(10.4%)などが続きました。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、トップ3にあげられている「屋久島」、「日本アルプス」、「富良野」の構成は変わっていませんが、順位は「屋久島」がトップになっているのに対して「富良野」は3位に下がっています。割合を見ても「屋久島」は増えていますが、「富良野」は減っており、「日本アルプス」はほとんど変わっていません。それに続く「上高地」、「四万十川」、「軽井沢」の順位は変わっていません。

● 5年前の調査（02年6月：第1回空気感調査結果より）

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	日本アルプス 19.9%	屋久島 19.3%	富良野 18.7%	上高地 17.9%	四万十川 16.0%
女性	富良野 27.3%	屋久島 21.7%	上高地 19.9%	日本アルプス 19.1%	四万十川 14.3%

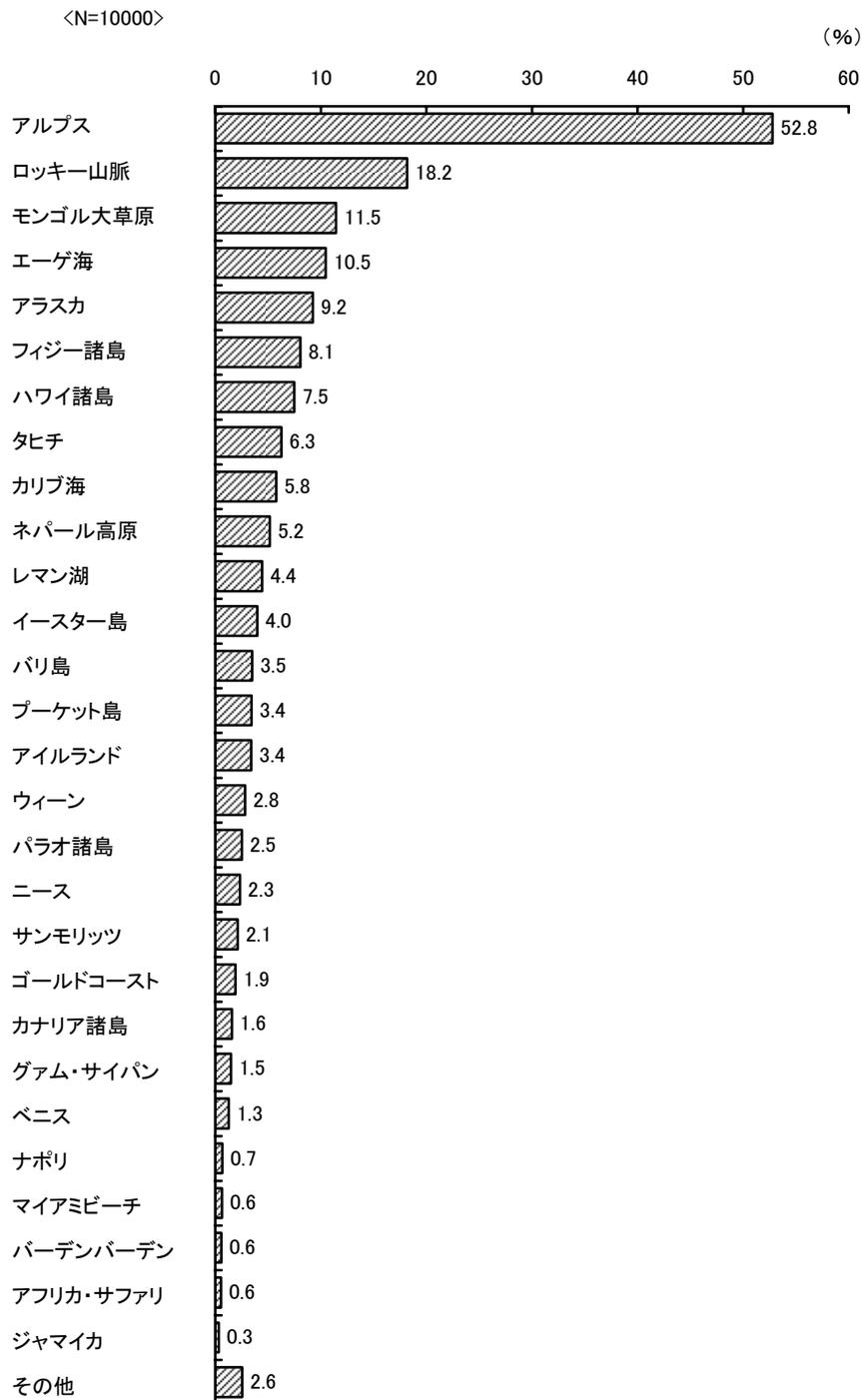
さらに、性別に比較すると、第1位は＜女性＞では「富良野」、＜男性＞では「日本アルプス」で「富良野」は第3位と男性と女性で差がありました。しかし、今回の調査では第1位、第2位とも男性女性とも同じ結果となっており、性別による差はありません。また、前回全体でトップだった「富良野」は男女とも順位を下げています。

(2) 海外

「アルプス」(52.8%)が断然トップ。第2位に「ロッキー山脈」(18.2%)、第3位に「モンゴル大草原」(11.5%)が続く。

◆男女とも第1位は「アルプス」、第2位は「ロッキー山脈」で違いはないが、第3位は<男性>では「アラスカ」、<女性>では「エーゲ海」。

図5. 海外で心地よい空気が流れていると思う場所



海外を見ると、第1位は「アルプス」(52.8%)で、半数強があげており突出しています。第2位は「ロッキー山脈」(18.2%)で、以下「モンゴル大草原」(11.5%)、「エーゲ海」(10.5%)、「アラスカ」(9.2%)、「フィジー諸島」(8.1%)、「ハワイ諸島」(7.5%)、「タヒチ」(6.3%)などが続いています。

《属性別》

● 性別

	1位	2位	3位	4位
男性	アルプス 48.9%	ロッキー山脈 21.0%	アラスカ 12.2%	モンゴル大草原 11.5%
女性	アルプス 56.7%	ロッキー山脈 15.3%	エーゲ海 12.0%	モンゴル大草原 11.4%

※5位以下は、10%未満のため省略

男性・女性とも第1位は「アルプス」がほぼ半数と圧倒的で、第2位にはともに「ロッキー山脈」が続いており上位2つは男女差がありませんが、第3位は<男性>が「アラスカ」、<女性>が「エーゲ海」と異なっています。

● 性別・年代別

		1位	2位	3位	4位
男 性	10・20代	アルプス 49.0%	ロッキー山脈 13.2%	モンゴル大草原 11.5%	エーゲ海 10.4%
	30代	アルプス 48.6%	ロッキー山脈 19.2%	アラスカ 10.9%	モンゴル大草原 10.6%
	40代	アルプス 49.5%	ロッキー山脈 25.7%	アラスカ 13.4%	—
	50代以上	アルプス 48.1%	ロッキー山脈 27.6%	アラスカ 17.0%	モンゴル大草原 13.1%
女 性	10・20代	アルプス 56.0%	モンゴル大草原 12.5%	ロッキー山脈 12.4%	エーゲ海 10.6%
	30代	アルプス 55.4%	ロッキー山脈 14.1%	エーゲ海 12.8%	—
	40代	アルプス 60.7%	ロッキー山脈 23.9%	エーゲ海 12.7%	モンゴル大草原 10.1%
	50代以上	アルプス 60.3%	ロッキー山脈 23.7%	モンゴル大草原 15.7%	エーゲ海 15.0%

※5位以下は、10%未満のため省略、「—」は、10%未満のため掲載せず

男性・女性ともいずれの年代でも第1位は「アルプス」があげられており、その割合は突出しています。なかでも<女性>は割合がとりわけ高く、<男性>をすべての年代で上回っています。

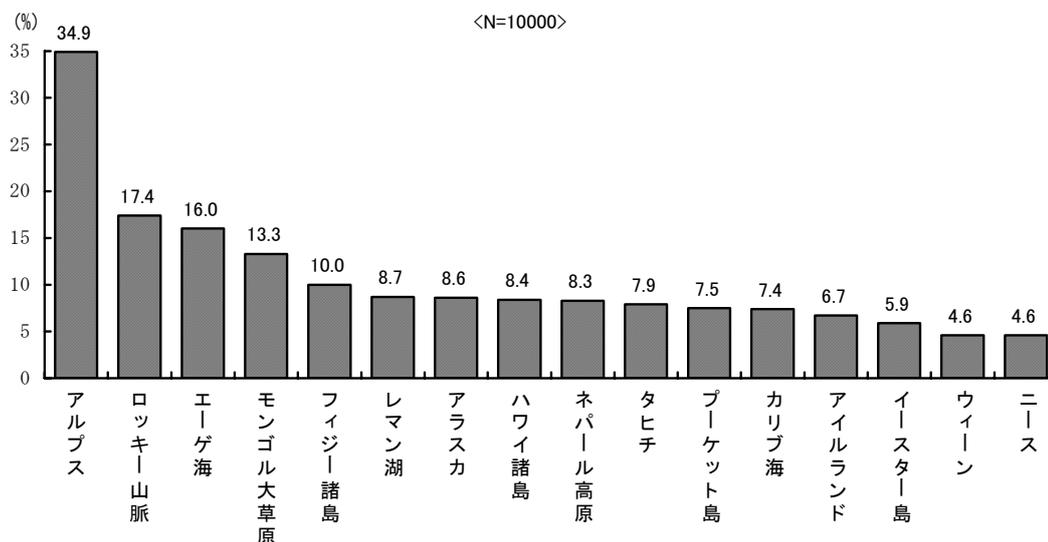
第2位はほとんどの年代で「ロッキー山脈」となっていますが、<女性・10代20代>だけが第3位となっています。

第3位以下では<男性>は「アラスカ」が<男性・10代20代>を除いたすべての年代であげられています。<女性>は「エーゲ海」が多くあげられています。しかし、「エーゲ海」は<男性>では<10代20代>以外では上位にあげられていませんし、逆に「アラスカ」は<女性>では上位にあげられていません。この2つは、性別によって明確にイメージが分かれるようです。

「モンゴル大草原」は男女を問わず多くの年代で第4位または第3位にあげられています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年6月：第1回空気感調査結果より)



5年前の調査でも第1位は「アルプス」(34.9%)で、以下やや差が開いて「ロッキー山脈」(17.4%)、「エーゲ海」(16.0%)、「モンゴル大草原」(13.3%)、「フィジー諸島」(10.0%)などが続いていた。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「アルプス」が突出していることは変わりなく、その差は拡大しています。第2位以下、「ロッキー山脈」、「エーゲ海」、「モンゴル大草原」、「フィジー諸島」など上位にあげられている地域の構成もほとんど変わっていません。

● 5年前の調査 (02年6月：第1回空気感調査結果より)

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	アルプス 32.3%	ロッキー山脈 20.5%	モンゴル大草原 14.2%	エーゲ海 13.0%	アラスカ 10.6%
女性	アルプス 37.4%	エーゲ海 19.1%	ロッキー山脈 14.3%	モンゴル大草原 12.3%	フィジー諸島 10.3%

さらに、性別に比較すると、男女とも第1位は「アルプス」が突出しているのはまったく同じですが、第2位は<男性>では「ロッキー山脈」、<女性>では「エーゲ海」と男性と女性で違いがありました。しかし、今回の調査では第1位、第2位とも男女で同じ結果となっており性別による違いはありません。なお、「エーゲ海」は男女ともにその割合が下がっています。

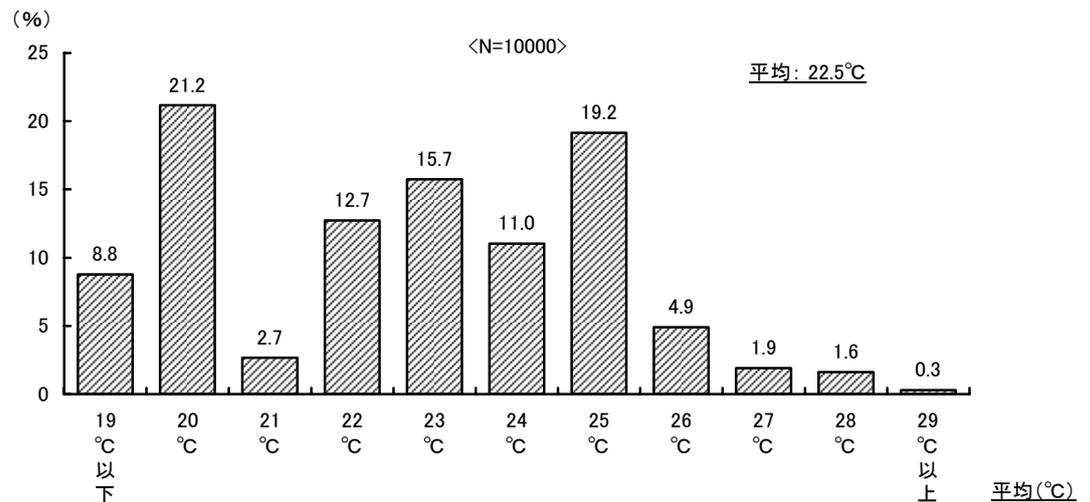
4. 最も空気が心地よいと感じる気温と湿度

(1) 気温

「20℃」(21.2%)が最も多く次いで「25℃」(19.2%)。“20～25℃”(82.5%)で全体の8割を占める。平均は22.5℃。

◆ “22℃以下”は<男性>の方が、“23℃以上”は<女性>の方が多い。

図 6. 最も空気が心地よいと感じる気温



性別	男性 <n=5000>	10.4	23.7	2.9	13.2	13.9	11.1	17.7	4.0	1.6	1.1	0.4	22.2
	女性 <n=5000>	7.1	18.7	2.4	12.3	17.6	10.9	20.6	5.8	2.2	2.1	0.2	22.8
年代	10代・20代 <n=3300>	7.8	18.7	2.2	11.9	15.7	12.4	20.1	5.8	2.6	2.4	0.5	22.7
	30代 <n=3500>	6.9	20.3	2.7	12.5	17.3	11.2	19.9	5.5	1.9	1.4	0.3	22.6
	40代 <n=2100>	9.7	24.6	3.0	14.0	13.9	10.8	17.8	3.5	1.4	1.1	0.2	22.2
	50代以上 <n=1100>	15.8	24.9	3.3	13.4	14.6	6.7	16.4	3.1	0.7	1.0	0.1	21.7

“空気が心地よい”と感じる気温は何度だと思いか聞きました。

最も多いのは「20℃」(21.2%)で、次いで「25℃」(19.2%)の順となっています。以下、「23℃」(15.7%)、「22℃」(12.7%)、「24℃」(11.0%)と続いており、“20～25℃”(82.5%)で全体の8割を占めています。

平均は22.5℃です。

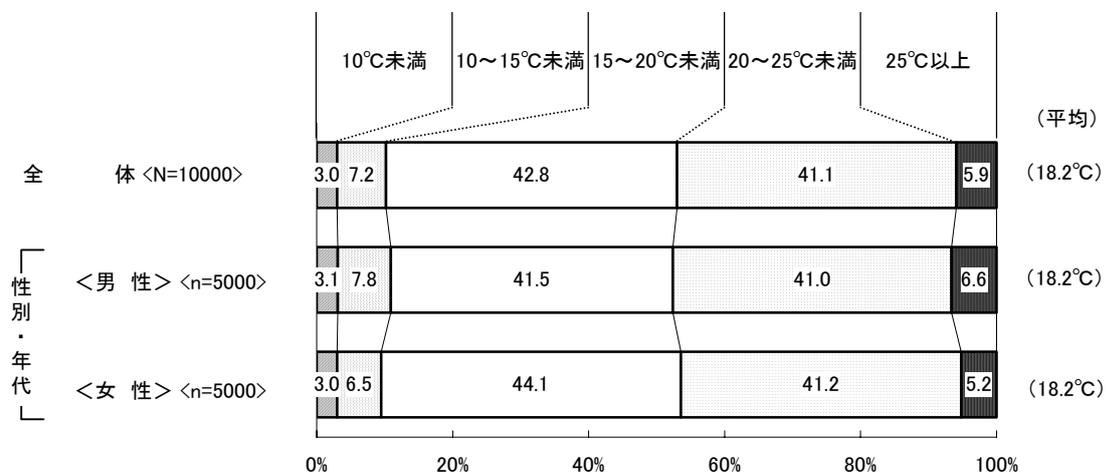
《属性別》

性別に見ると、“22℃以下”は<男性>が<女性>を上回っているのに対して、“23℃以上”は「24℃」を除いて<女性>が<男性>をわずかつ上回っており、平均温度も<女性>の方がほんのわずかですが高くなっています。

年代別に見ると、「20℃」は年齢の高い人ほど多く、「25℃」は若い人ほど多くなっています。平均温度は若い人ほど高く、年齢が高くなるにしたがって低くなっています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年6月：第1回空気感調査結果より)



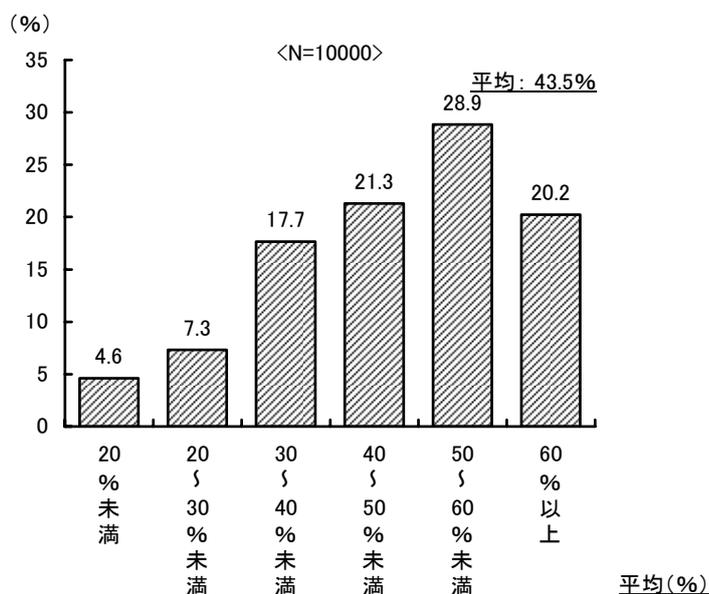
5年前の調査では、「15~20°C未満」(42.8%)と「20~25°C未満」(41.1%)とが双璧となっているものの、「15~20°C未満」がわずかに「20~25°C未満」を上回っており、平均は18.2°Cでしたから、この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、心地よいと感じる気温は前回調査の時より4.3°C高くなっています。

※5年前の第1回調査は調査期間が3月10日~30日で、冬から春になったばかりの頃に実施しました。

(2) 湿度

「50～60%未満」(28.9%)が最も多く、「40～50%未満」(21.3%)、「60%以上」(20.2%)、「30～40%未満」(17.7%)が続く。平均は43.5%。
 ◆平均値は<女性>(平均42.7%)より<男性>(平均44.3%)の方がやや高い。

図7. 最も空気が心地よいと感じる湿度



性別	湿度範囲 (%)						平均 (%)
	20%未満	20%～30%未満	30%～40%未満	40%～50%未満	50%～60%未満	60%以上	
男性 <n=5000>	3.6	6.3	17.4	22.1	29.7	20.9	44.3
女性 <n=5000>	5.6	8.4	17.9	20.5	28.0	19.6	42.7
年代							
10代・20代 <n=3300>	6.2	9.9	18.7	19.6	25.7	20.0	42.0
30代 <n=3500>	4.3	6.9	17.8	20.6	30.5	19.8	43.7
40代 <n=2100>	3.4	6.2	16.9	23.2	30.0	20.3	44.2
50代以上 <n=1100>	2.8	3.3	15.5	25.1	31.0	22.3	45.8

“空気が心地よい”と感じる湿度はどれくらいかについても聞きました。

「50～60%未満」(28.9%)が最も多く、次いで「40～50%未満」(21.3%)の順となっており、以下「60%以上」(20.2%)、「30～40%未満」(17.7%)が続いています。

平均は43.5%となっています。

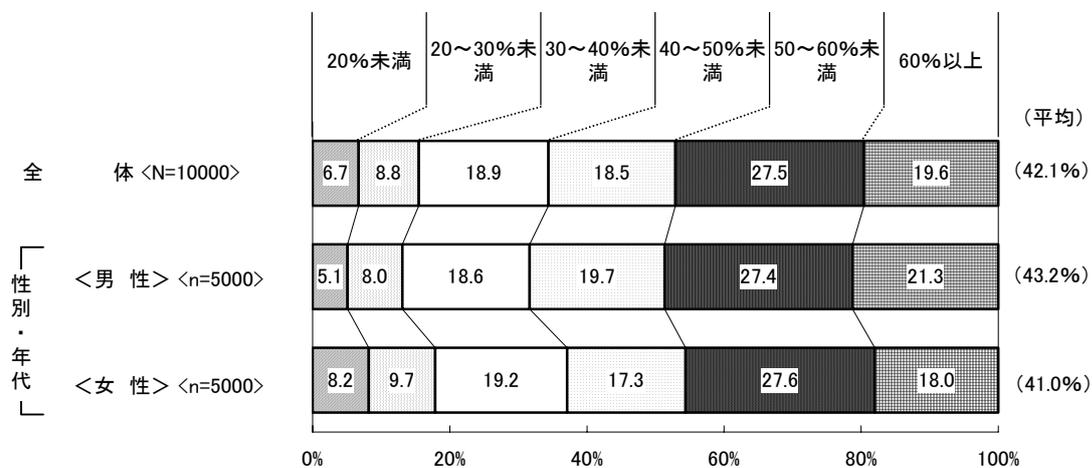
《属性別》

性別に見ると、「30%未満」は<女性>(14.0%)が<男性>(9.9%)をやや上回っていますが、そのほかにはさほど顕著な違いはありません。平均は<男性>が44.3%で、<女性>の42.7%よりやや高くなっています。

年代別に見ると、年齢が高い人ほど湿度が高く<50代以上>では45.8%ですが、若くなるほど湿度はわずかずつ下がり、<10代20代>では42.0%となっています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年6月：第1回空気感調査結果より)



5年前の調査では、「50～60%未満」(27.5%)が最も多く、以下「60%以上」(19.6%)、「30～40%未満」(18.9%)、「40～50%未満」(18.5%)の順となっており、平均は42.1%でした。

この調査結果を今回の調査結果と比較すると、「50～60%未満」が中心であることは変わりありませんが、「40～50%未満」が増えています。総合的に見て、平均値はやや高くなっています。

居住地別に見ると、5年前の調査に引き続き今回の調査でも＜北陸＞は湿度を最も高く回答しています。＜北陸＞は地域性として多湿を好む傾向があるのでしょうか。

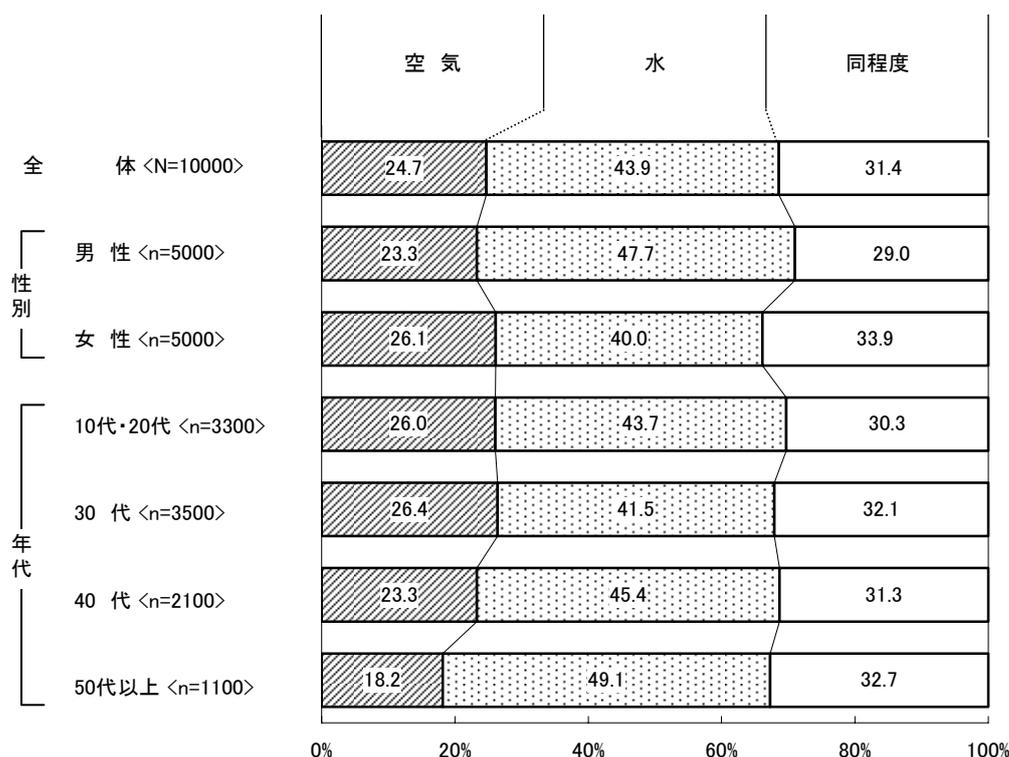
5. 「空気・水・安全」を日常生活のなかで意識する度合い

「空気」の意識度は「水」「安全」に比べて低い。「水」と「安全」では「安全」の方が高い。

◆ 5年前と比較して、「空気」「安全」の意識度は上がったが、「水」は下がる。

(1) 「空気」と「水」で意識することが多い方

図 8. 「空気」と「水」でどちらの方が意識することが多いか



「空気・水・安全」の3つについて、日常生活の中で意識する度合いが高いのはどれか聞きました。

まず、「空気」と「水」ではどちらを意識することが多いか聞いたところ、「空気」(24.7%)との回答は2割強にとどまり、「水」(43.9%)との回答が4割強を占めています。また、「同程度」(31.4%)は3割強となっています。

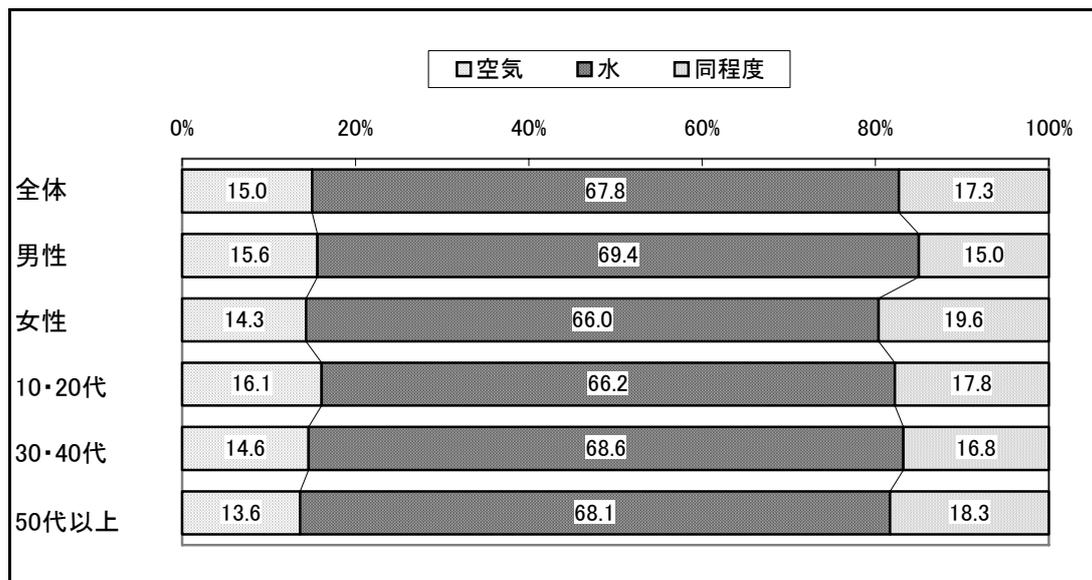
《属性別》

性別に見ると、「水」は<男性>(47.7%)が<女性>(40.0%)を上回っていますが、「空気」や「同程度」は<女性>(26.1%、33.9%)が<男性>(23.3%、29.0%)を上回っています。「空気」を意識するのは<男性>より<女性>の方がやや多いようです。

年代別に見ると、おおむね年齢の高い人ほど「空気」が少なく、「水」を多くあげる傾向が見られ、「空気」は<30代>(26.4%)、<10代20代>(26.0%)が<50代以上>(18.2%)、<40代>(23.3%)をやや上回っています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)



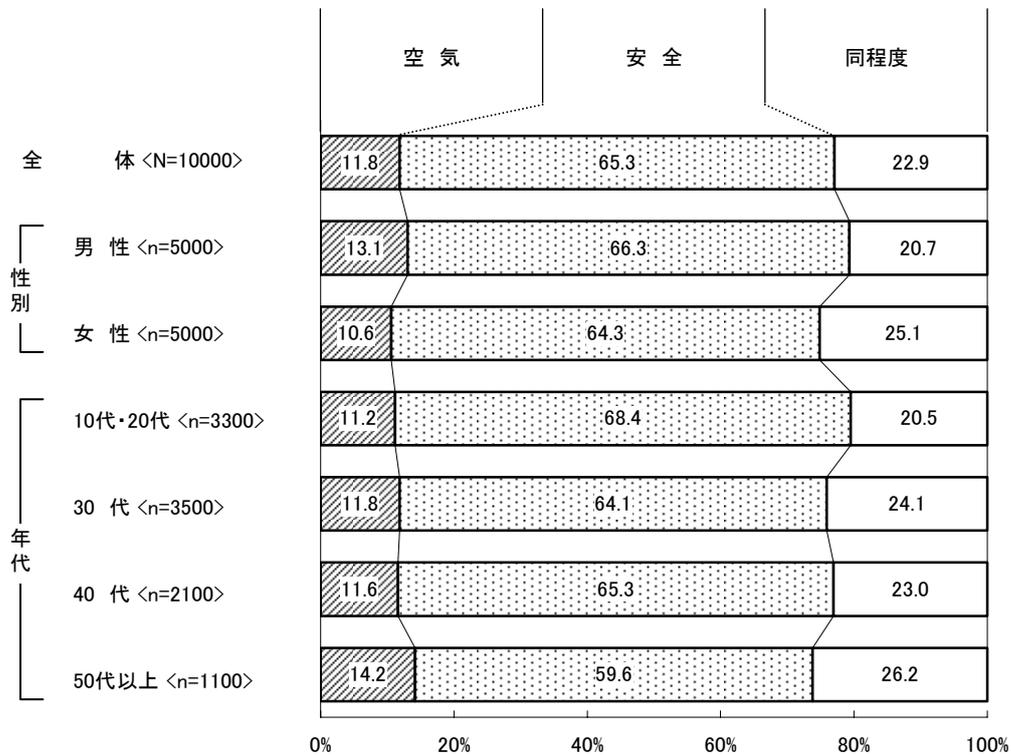
5年前の調査では、「水」(67.8%)が7割弱を占め、「空気」(15.0%)は1割強にとどまっていた。また、「同程度」(17.3%)は2割弱でした。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「水」が「空気」を上回っていることに変わりはありませんが、その割合は5年前のように「水」が一方向的に上回るといふほどではなく、「空気」や「同程度」をあげる割合が増え「水」との差が縮小しています。

さらに、年代別に見ると、「空気」を意識するのは5年前の調査では若い人ほど多いという傾向が見られましたが、その差はわずかでした。しかし、今回の調査では若い人が「空気」を意識する割合は年齢の高い人を確実に上回っており、<10代20代>では16.1%から26.0%へと10ポイントも上昇しています。若い人ほど「空気」を意識する割合が高まっていると言えそうです。

(2) 「空気」と「安全」で意識することが多い方

図 9. 「空気」と「安全」でどちらの方が意識することが多いか



次に、「空気」と「安全」ではどちらを意識することが多いか聞いたところ、「空気」(11.8%)は1割強にとどまり、「安全」(65.3%)が6割強を占めています。また、「同程度」(22.9%)は2割強となっています。

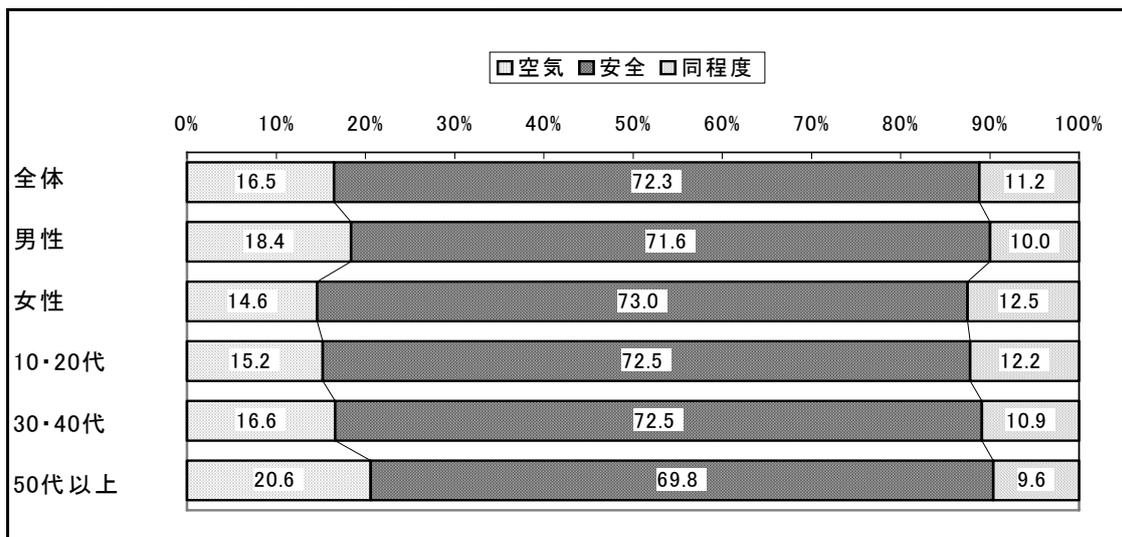
《属性別》

性別に見ると、「空気」「安全」は<男性>(13.1%、66.3%)が<女性>(10.6%、64.3%)を上回っているのに対して、「同程度」は<女性>(25.1%)が<男性>(20.7%)を上回っています。

年代別に見ると、「空気」はおおむね若い人より年齢の高い人の方が上回っており、<10代20代>では11.2%ですが、<50代以上>では14.2%となっています。一方、「安全」は若い人ほど多く、<10代20代>(68.4%)では7割強を占めています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)



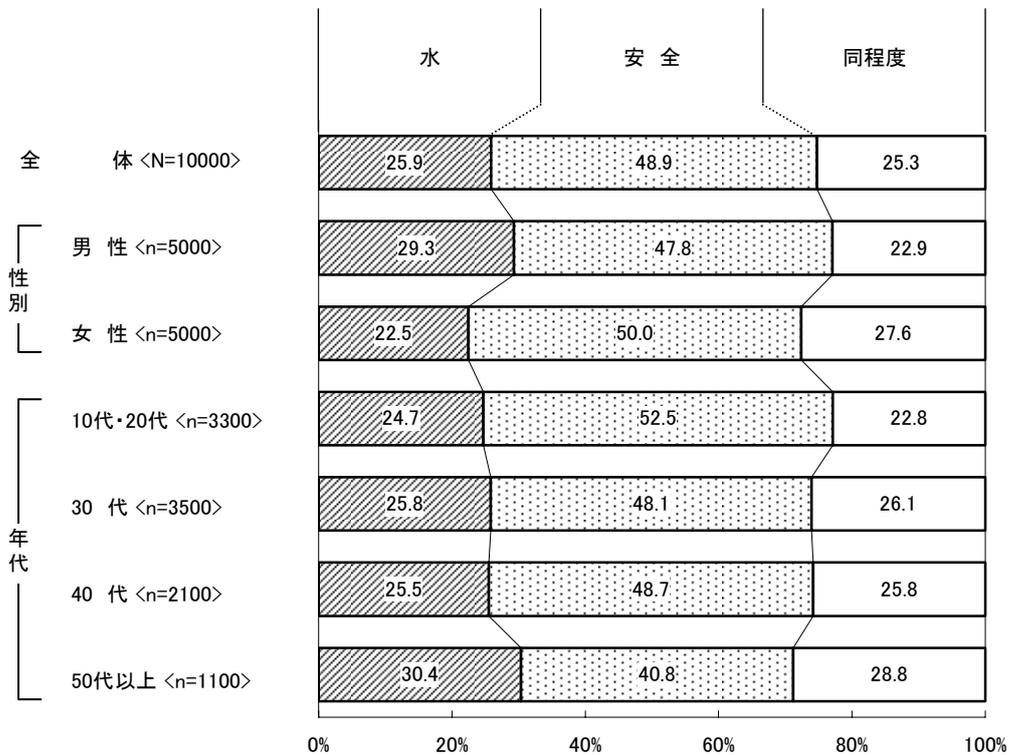
5年前の調査では、「安全」(72.3%)が7割強を占め、「空気」(16.5%)は1割強にとどまっていた。また、「同程度」(11.2%)は1割でした。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「安全」が一方的に上回っている状況は変わりませんが、その割合は「安全」「空気」がともに減り、「同程度」とする回答が増えています。

これをさらに年代別に比較すると、5年前の調査では<50代>は「空気」が20.6%を示し“40代以下”を確実に上回っていると言えましたが、今回の調査では<50代>は14.2%にとどまり、“40代以下”(全世代11~12%)との差は小さく年代間の差は縮小しています。また、すべての年代で「同程度」が5年前の調査結果を大きく上回っています。

(3) 「水」と「安全」で意識することが多い方

図 10. 「水」と「安全」でどちらの方が意識することが多いか



さらに、「水」と「安全」ではどちらを意識することが多いか聞きました。

「安全」(48.9%)が半数弱を占め、「水」(25.9%)は2割強にとどまっています。「同程度」(25.3%)も2割強です。

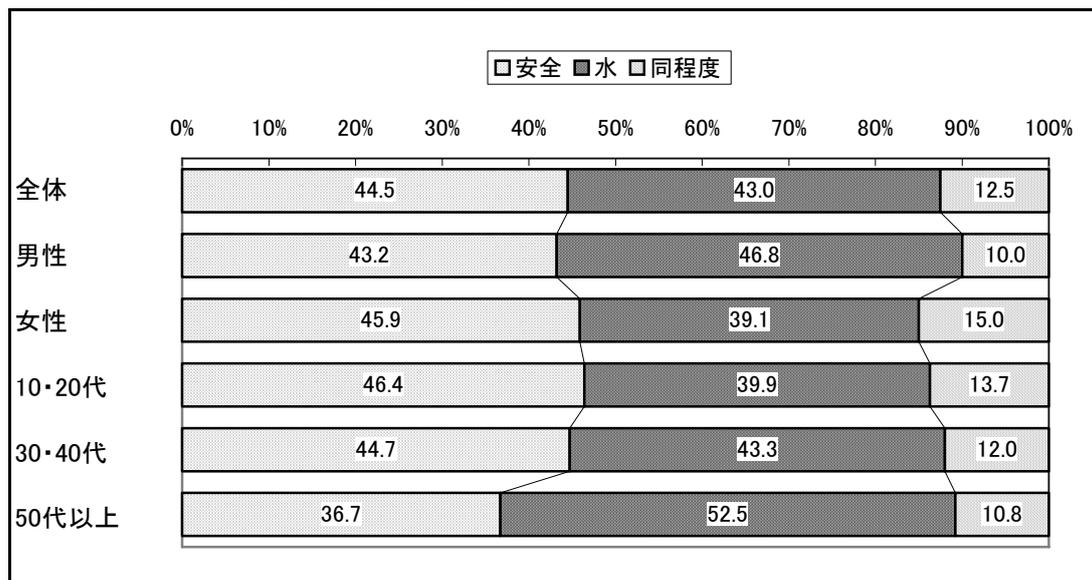
《属性別》

性別に見ると、<女性>は「安全」(50.0%)が<男性>(47.8%)を上回り、「水」(22.5%)が<男性>(29.3%)を下回っています。

年代別に見ると、「水」は年齢が高い人ほど多く<50代以上>(30.4%)では3割を示しているのに対して、「安全」は若い人ほど多く<10代20代>(52.5%)では半数強を占めています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)



5年前の調査では、「安全」(44.5%)「水」(43.0%)ともに4割強と拮抗しており、「同程度」(12.5%)が1割強でしたから、この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「安全」がやや増え、「水」は大きく減りました。

さらに、年代別に比較すると、5年前の調査では「安全」は若い人ほど多く、「水」は年齢の高い人ほど多いという結果でした。今回の調査でもその傾向は同じですが、その割合を見ると<10代20代>では「安全」が半数を超えており、とりわけ強く危惧している様子がうかがえます。

■ 「空気・水・安全」の意識度合い比較

<今回>

	空気の意識度合い	水の意識度合い	安全の意識度合い
空気：水	24.7	43.9	—
空気：安全	11.8	—	65.3
安全：水	—	25.9	48.9
合計値	36.5	69.8	114.2
(意識度の割合)	(16.6)	(31.7)	(51.8)

以上見てきたとおり、「空気・水・安全」の意識度合いを総合的に判断すると、「空気」が意識される度合いは「水」や「安全」に比べて低く、「水」と「安全」では「安全」の方が意識される度合いが高いという結果です。

<5年前> (02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)

	空気の意識度合い	水の意識度合い	安全の意識度合い
空気：水	15.0	67.8	—
空気：安全	16.5	—	72.3
安全：水	—	43.0	44.5
合計値	31.5	110.8	116.8
(意識度の割合)	(12.2)	(42.7)	(45.1)

5年前の調査では、「空気」が意識される度合いは「水」や「安全」に比べて非常に低く、「水」と「安全」は拮抗していました。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「空気」は意識される度合いがやや上がっていますが、「水」や「安全」と比べるとまだまだ低いと言えます。一方、「安全」はますます意識される度合いが上がっていますが、「水」は下がっています。

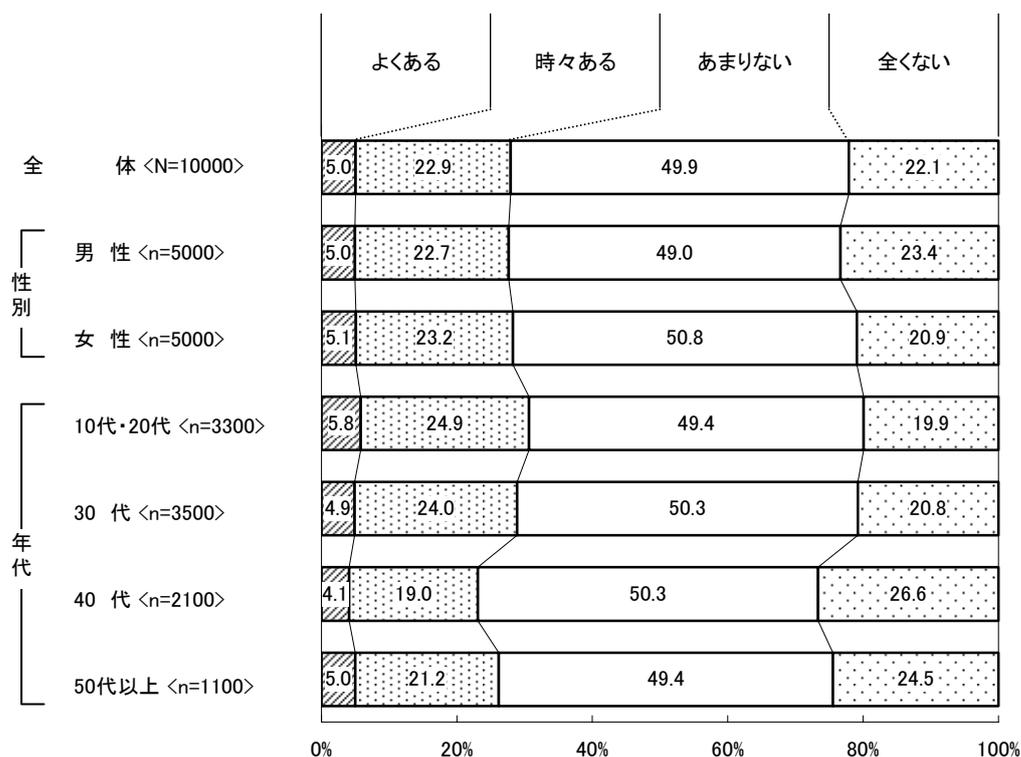
6. 「空気・水・安全」のコスト意識

「空気」「水」「安全」に対するコスト意識を比べると「安全」へのコスト意識が一番高い。

◆ 5年前の調査と比較して、「空気」「水」「安全」ともコスト意識は高まっている。

(1) 「空気」のコスト意識

図 11. 「空気」のコストを意識すること



「空気・水・安全」に関して、日頃、そのコストをどの程度意識しているのか聞きました。

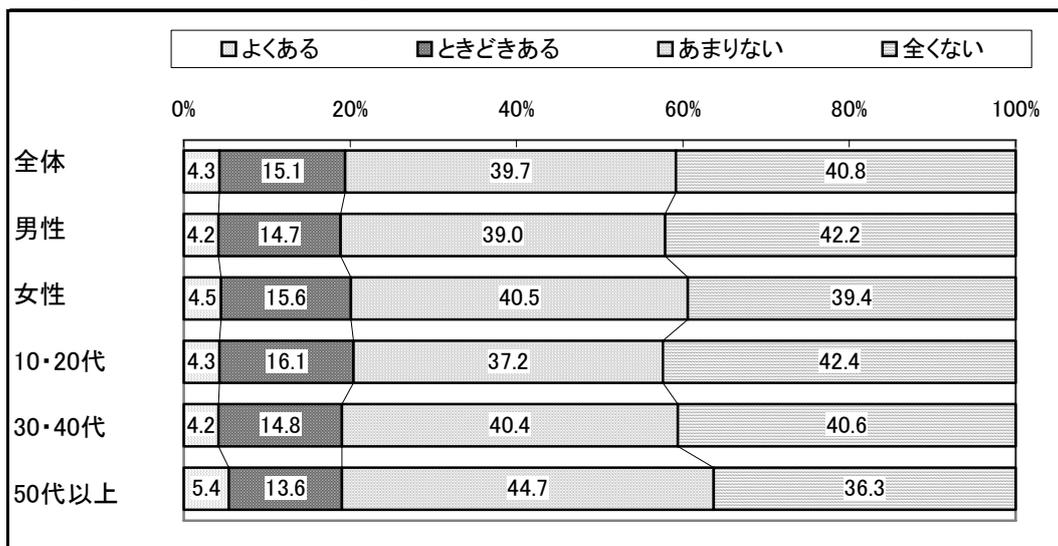
まず、「空気」のコストを意識することについては、「よくある」(5.0%)、「時々ある」(22.9%)が2割強を占め、両者をあわせると“ある”(27.9%)は3割弱です。一方、「全くない」(22.1%)は2割強ながら、「あまりない」(49.9%)がほぼ半数を占めており、両者をあわせた“ない”(72.0%)は7割強を占めています。

《属性別》

年代別に見ると、<10代20代>は「よくある」(5.8%)、「時々ある」(24.9%)が他の年代をやや上回っているのに対して、<40代>(4.1%、19.0%)は他の年代を下回っており、「空気」に対するコストを最も意識しない年代となっています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)



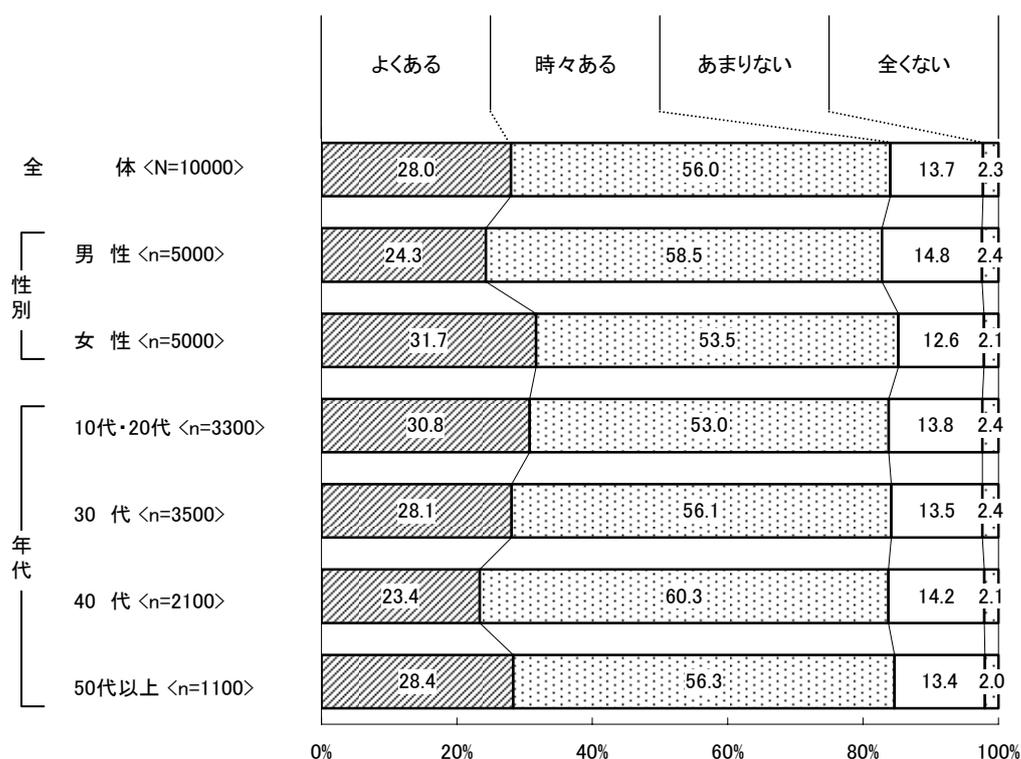
5年前の調査では、「全くない」(40.8%)と「あまりない」(39.7%)がそれぞれ4割程度を占め、両者をあわせると8割が“ない”(80.5%)としており、「時々ある」(15.1%)と「よくある」(4.3%)をあわせても“ある”(19.4%)は2割弱にすぎませんでした。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、“ない”が多いという状況は変わっていませんが、その割合を見ると“ある”が9ポイント増えておりその開きはわずかながらも縮小しています。

さらに、年代別に比較すると、5年前の調査では<10代20代>は“ある”が他の年代を1ポイント上回っている程度できわめて小さな差しかありませんでしたが、今回の調査ではその差が広がっており、若い人ではコスト意識が高まっていることを示しています。

(2) 「水」のコスト意識

図 12. 「水」のコストを意識すること



次に、「水」のコストを意識することについては、「よくある」(28.0%)は3割弱にとどまりますが、「時々ある」(56.0%)が半数強を占めており、両者をあわせると“ある”(84.0%)が8割を超えています。「全くない」(2.3%)はごくわずかで、「あまりない」(13.7%)も1割強にすぎず、両者をあわせた“ない”は16.0%となっています。

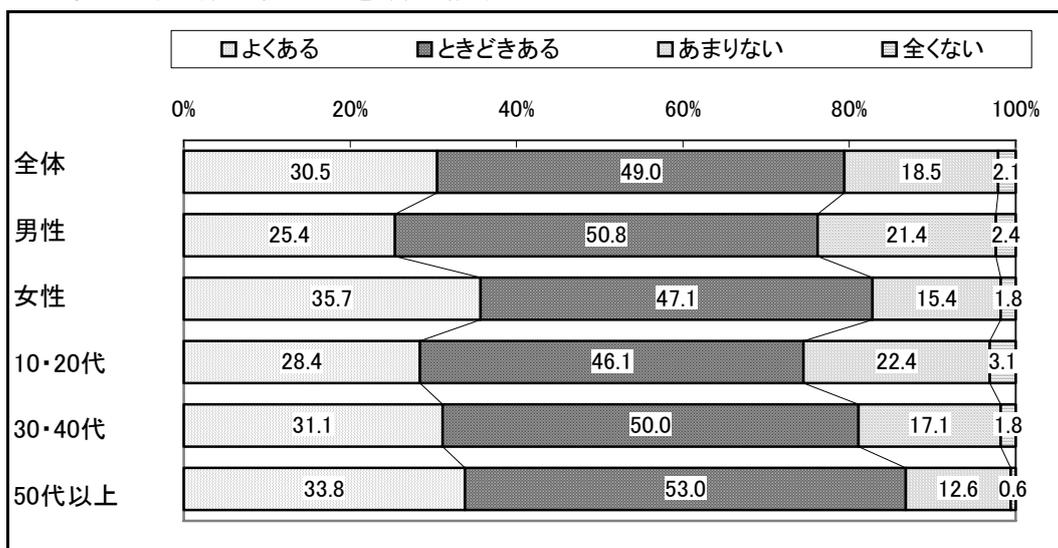
《属性別》

性別に見ると、「よくある」は<女性>(31.7%)が<男性>(24.3%)を上回っています。

年代別に見ると、「よくある」はおおむね若い人ほど多く、<10代20代>(30.8%)では3割となっているのに対して、<40代>(23.4%)では2割強にとどまっています。しかし、<50代以上>(28.4%)ではまた増えています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)



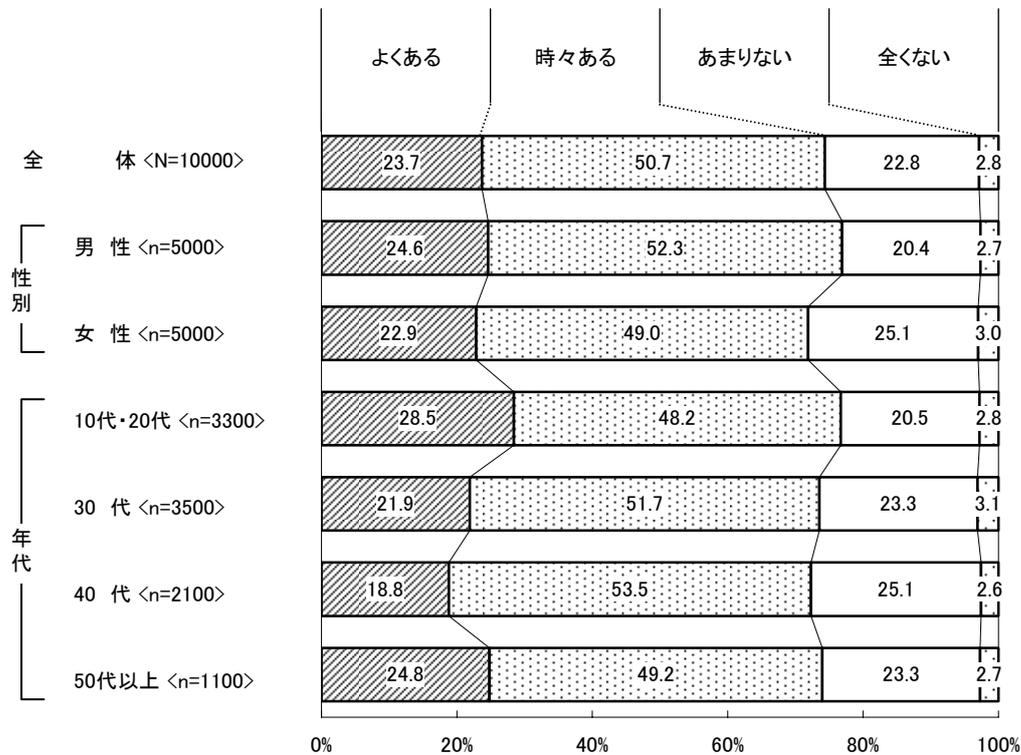
5年前の調査では、「よくある」(30.5%)が3割、「時々ある」(49.0%)がほぼ半数を占めており、8割が“ある”(79.5%)としていました。一方、「あまりない」(18.5%)と「全くない」(2.1%)をあわせた“ない”(20.6%)は2割でした。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、“ある”が5ポイントとさほど多くありませんが増えています。

これをさらに年代別に比較すると、5年前の調査では年代の高い人ほど“ある”が多く、<50代以上>(86.8%)が<10代20代>(74.5%)を上回っていましたが、今回の調査では年代による違いはほとんどありません。「水」のコスト意識は年代に関わりなく、全世代共通の課題となっていることを示しているようです。

(3) 「安全」のコスト意識

図 13. 「安全」のコストを意識すること



さらに、「安全」のコストを意識することについても聞きました。

「よくある」(23.7%)は2割強ながら、「時々ある」(50.7%)が半数を占めており、両者をあわせると“ある”(74.4%)が7割強を占めます。「全くない」(2.8%)はごくわずかしがなく、「あまりない」(22.8%)が2割強となっており、両者をあわせた“ない”は25.6%です。

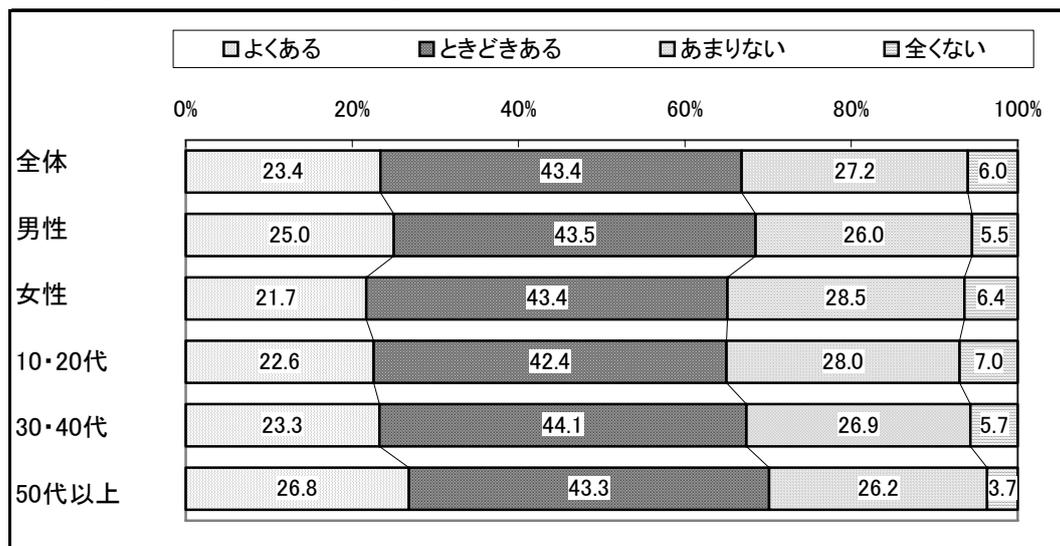
《属性別》

性別に見ると、「よくある」「時々ある」ともに<男性>(24.6%、52.3%)が<女性>(22.9%、49.0%)をわずかずつ上回っています。「安全」に対するコスト意識は<男性>の方がやや高いようです。

年代別に見ると、「よくある」は<10代20代>(28.5%)が最も多く、次いで<50代以上>(24.8%)の順となっているのに対して、<40代>(18.8%)は最も少なく2割弱にとどまっています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)



5年前の調査では、「よくある」(23.4%)が2割強、「時々ある」(43.4%)が4割強を占め、両者をあわせると7割弱が“ある”(66.8%)としているのに対して、「あまりない」(27.2%)と「全くない」(6.0%)をあわせた“ない”(33.2%)は3割強という結果でした。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「よくある」の割合はあまり変わっていないものの、「時々ある」が増えており、その分“ない”が減少しています。「安全」に対するコスト意識はさらに高まっているようです。

これをさらに年代別に比較すると、5年前の調査では年齢の高い人ほど“ある”が多く、<50代以上>(70.1%)では7割を占めていたのに対して<10代20代>(65.0%)<30代40代>(67.4%)では6割強にとどまっていたましたが、今回の調査ではすべての年代で7割を超えており年代による差はなくなっています。

■「空気・水・安全」のコスト意識の比較

<今回>

	よくある	時々ある	あまりない	全くない	平均スコア
空気	5.0	22.9	49.9	22.1	-61.2
水	28.0	56.0	13.7	2.3	+93.7
安全	23.7	50.7	22.8	2.8	+69.7

※「よくある」：+2点、「時々ある」：+1点、「あまりない」：-1点、「全くない」：-2点を付加し、平均スコアを算出した。

以上見てきた「空気・水・安全」に対するコスト意識を比較しやすくするために、それぞれの割合を一覧表にし、ポイントを付加して数値化（平均スコア）したものが上の表です。

この表から判断すると、「水」（+93.7点）に対するコスト意識が最も高く、次いで「安全」（+69.7点）に対するコスト意識が高いのですが、「空気」（-61.2点）に対するコスト意識は「水」や「安全」に比べてきわめて低いという結果です。

<5年前>（02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341）

	よくある	時々ある	あまりない	全くない	平均スコア
空気	4.3	15.1	39.7	40.8	-97.6
水	30.5	49.0	18.5	2.1	+87.3
安全	23.4	43.4	27.2	6.0	+51.0

5年前の調査結果についても数値化し検証すると、「水」（+87.3点）や「安全」（+51.0点）に対するコスト意識は高いが、「空気」（-97.6点）に対するコスト意識は非常に低いという結果でした。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較してもこの傾向は変わっていませんが、その値を比較すると「水」や「安全」の+の値はさらに増え、「空気」についても-の値が縮小されていることから、「空気・水・安全」とともに確実にコスト意識が高まっていると考えられます。

7. 「空気・水・安全」の値段

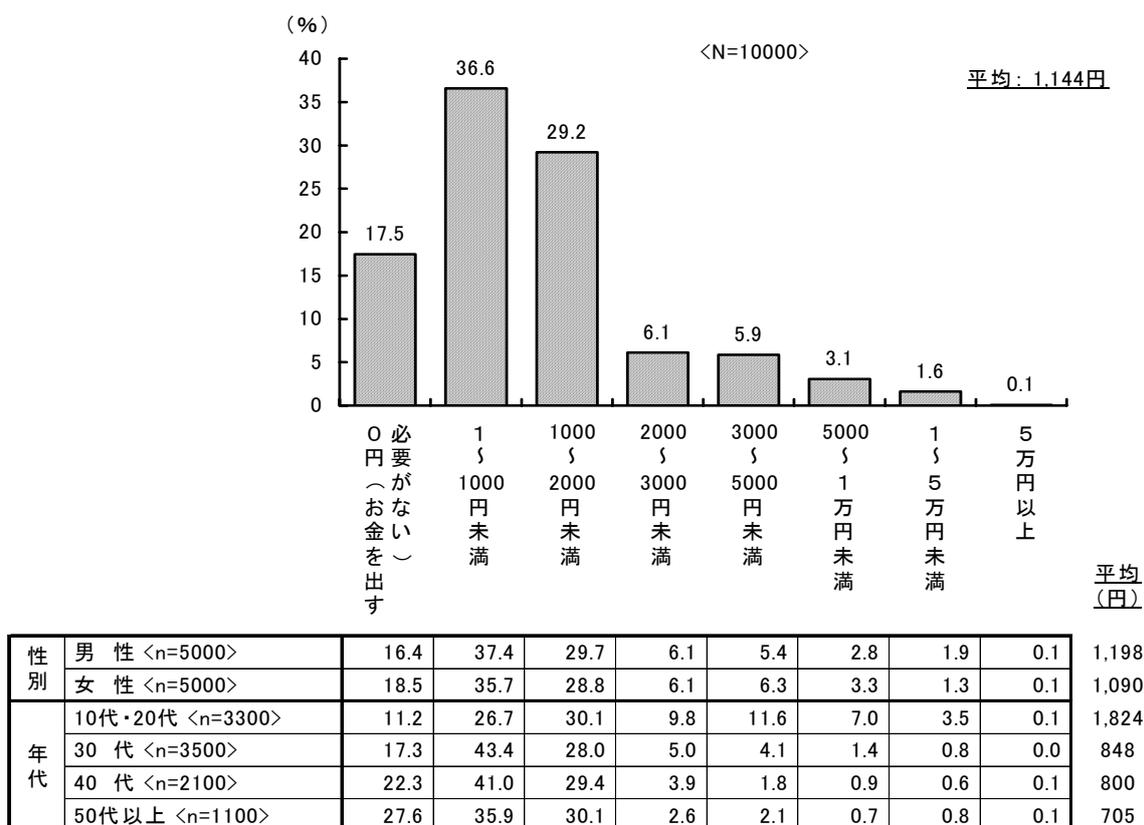
「空気・水・安全」を得るために1か月間出してもいい金額は「おいしい・快適な空気」(1,144円)、「おいしい水」(1,346円)、「安全」(1,988円)。

◆ 「空気」「水」「安全」ともに、<10代 20代>が最も高額で、30代以上を大きく上回る。

◆ 5年前に比べ「空気・水・安全」全ての値段が半減。

(1) 「おいしい・快適な空気」1か月の値段

図 14. 「おいしい・快適な空気」を1か月間得るために出してもよいと思う金額



では、「空気・水・安全」に値段をつけるとしたら、それぞれ一体いくらくらいだと考えているのでしょうか。まず、「おいしい空気・快適な空気」を1か月間得るために出してもよいと思う金額を具体的にあげてもらいました。

「1～1,000円未満」(36.6%)が3割強、「1,000～2,000円未満」(29.2%)が3割弱を占めています。また、「0円(お金を出す必要はない)」(17.5%)も2割弱と、『お金を出しておいしい空気を手に入れる』という感覚を持っていない人も少なくありません。これらをあわせると、「2,000円未満」(83.3%)が全体の8割強を占めています。

出してもよいと思う金額の平均は1,144円です。

なお、1名が「500万円」と回答しており、最高額となっています。

《属性別》

性別に平均金額を見ると、<男性>の1,198円に対して<女性>は1,090円と、<男

性>が<女性>を上回っています。

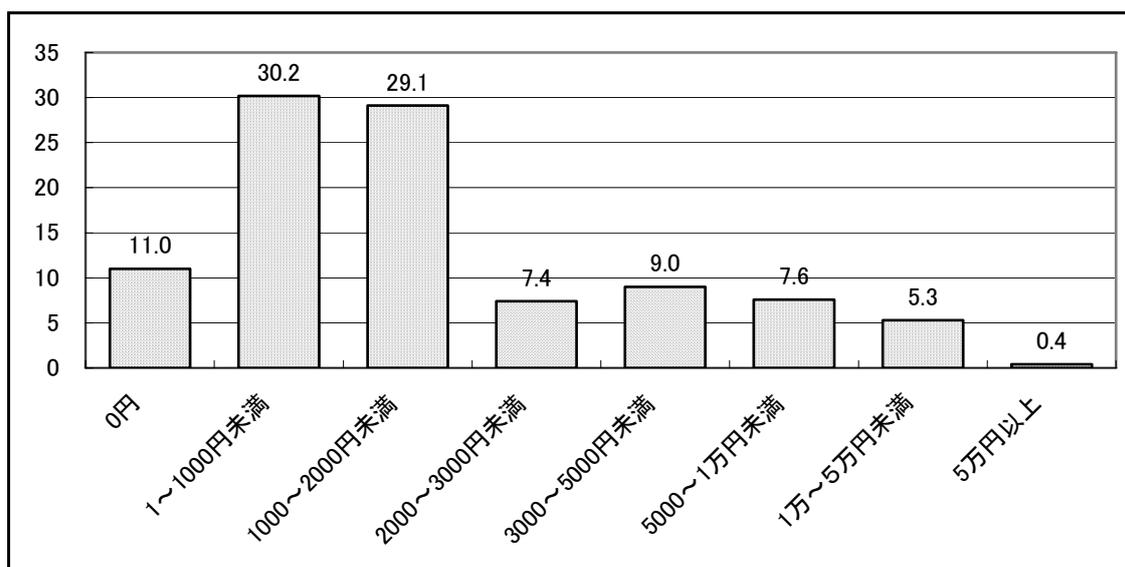
年代別に見ると、<10代 20代>は1,824円と突出しており、“30代以上”は年齢が高くなるにしたがって少しずつ金額が下がっています。

職業別に見ると、最も高額なのは<学生・生徒>で2,151円です。一方、最も低額なのは<自営業>で804円です。

未婚者別に見ると、<未婚者>は1,431円で、<既婚者>の973円を大きく上回っています。

<5年前の調査結果との比較>

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)



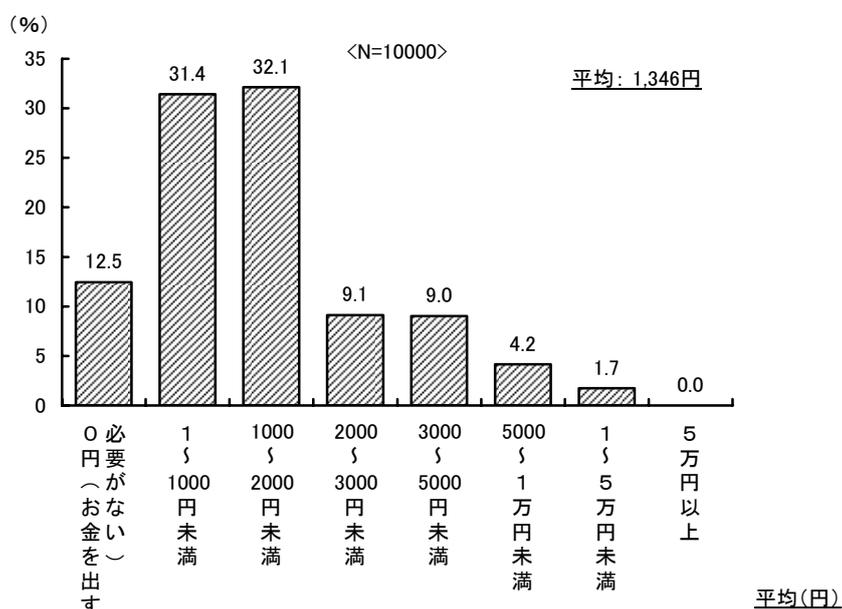
5年前の調査では、「1~1,000円未満」(30.2%)、「1,000~2,000円未満」(29.1%)が3割前後で、「0円(特にお金を出す必要はない)」(11.0%)は1割、平均金額は2,125円となっていました。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、価格帯の順序は変わっていませんが、その割合は、「0円」を含めた“1,000円未満”(5年前41.2%→今回54.1%)が13ポイント増え、「1,000~2,000円未満」はほとんど変わらないものの、「2,000~3,000円未満」、「3,000~5,000円未満」、「5,000~1万円未満」、「1~5万円未満」、「5万円以上」が減っています。その結果、出してもよいと思う金額の平均は大幅に下がっています。

さらに年代別に比較すると、5年前の調査では年齢が高い人ほど高額で、<50代以上>では2,514円ですが、年齢が若くなるほど金額が下がり<10代 20代>では2,061円となっていました。しかし、今回の調査では男性女性ともに<10代 20代>が最も高額で、年齢が高くなるにしたがって金額が下がるという逆転現象をおこしています。

(2) 「おいしい水」1か月の値段

図 15. 「おいしい水」を1か月間得るために出してもよいと思う金額



性別	男性 <n=5000>	11.7	31.3	33.3	9.2	8.2	4.2	2.1	0.0	平均(円)
	女性 <n=5000>	13.2	31.6	30.9	9.0	9.8	4.1	1.4	-	
年代	10代・20代 <n=3300>	7.2	21.1	29.1	14.0	16.7	8.5	3.3	0.0	2,070
	30代 <n=3500>	13.0	37.8	32.5	7.2	6.6	2.3	0.7	-	1,025
	40代 <n=2100>	15.9	35.8	35.3	6.4	3.8	1.9	1.0	-	938
	50代以上 <n=1100>	19.8	33.7	33.9	5.7	3.6	1.4	1.8	-	974

次に、「おいしい水」を1か月間得るために出してもよいと思う金額を具体的にあげてもらいました。

「1,000～2,000円未満」(32.1%)が3割強で最も多く、「1～1,000円未満」(31.4%)がわずかの差が続いています。また、「0円(お金を出す必要はない)」(12.5%)も1割強となっています。

出してもよい金額の平均は1,346円です。

《属性別》

性別に平均金額を見ると、<男性>(1,383円)が<女性>(1,308円)を上回っています。

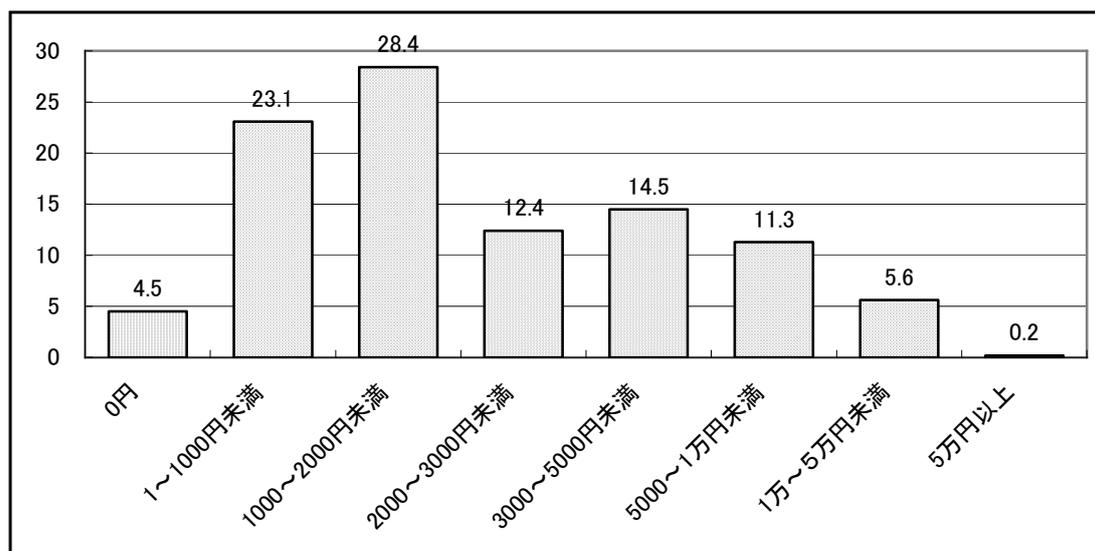
年代別に見ると、ほぼ若い人ほど高額となっており、なかでも<10代20代>は2,070円と突出しています。

職業別に見ると、<学生・生徒>が最も高額で平均金額は2,359円と突出しています。一方、<自営業>は最も低額で平均金額は1,032円です。

未婚者別に見ると、<未婚者>は1,634円で、<既婚者>の1,174円を上回っています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)



5年前の調査では、「1,000~2,000円未満」(28.4%)が最も多く、以下「1~1,000円未満」(23.1%)、「3,000~5,000円未満」(14.5%)、「2,000~3,000円未満」(12.4%)、「5,000~1万円未満」(11.3%)と続いており、「0円」は4.5%、平均は2,525円でした。

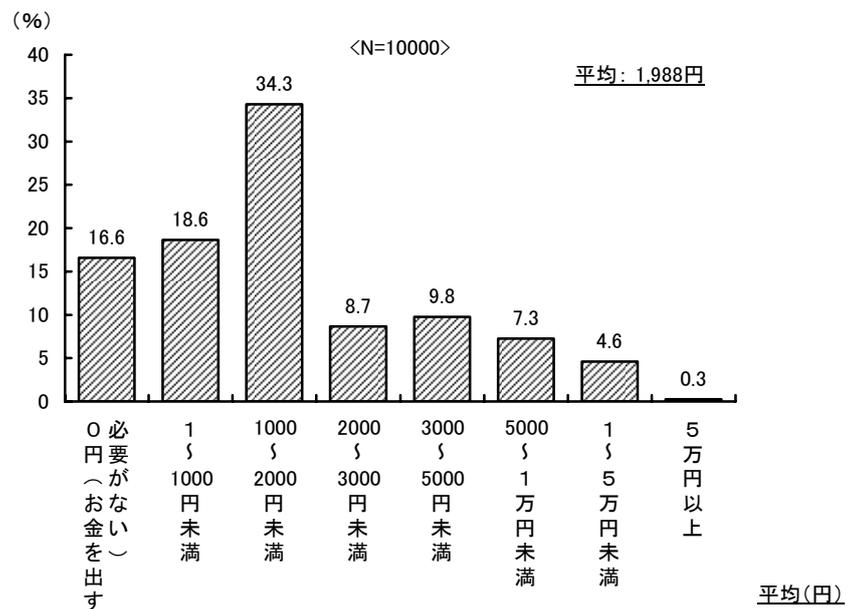
この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「1,000~2,000円未満」「1~1,000円未満」が上位ということは変わっていませんが、その割合を見ると、「0円」を含めた“2,000円未満”(5年前56.0%→今回76.0%)が20ポイント増え、“2,000円以上”が大きく減っています。そのため、平均金額が大きく下がりました。

さらに性別に平均金額を比較すると、5年前の調査でも<男性>が<女性>より高額だということは同じですが、その金額の男女差を比較すると5年前の調査では<男性>の2,600円に対して<女性>は2,447円と150円余りの差がありましたが、今回の調査では75円の差にとどまり、差は縮小しています。

年代別に比較すると、5年前の調査では年齢が高い人ほど高額を示しており、<10代20代>の2,423円に対して<50代以上>では3,017円となっていました。今回の調査では若い人ほど高額で、<10代20代>では2,070円ですが<50代以上>は974円と大きく下回っています。

(3) 「安全」1か月の値段

図 16. 「安全」を1か月間得るために出してもよいと思う金額



性別	男性 <n=5000>	15.7	18.7	32.0	12.2	11.8	4.2	5.1	0.4	2,116
	女性 <n=5000>	17.5	18.6	36.6	5.2	7.7	10.3	4.1	0.1	
年代	10代・20代 <n=3300>	8.7	11.1	19.4	10.2	15.5	20.6	13.9	0.8	4,150
	30代 <n=3500>	18.0	22.1	40.9	7.9	9.8	1.3	-	-	1,043
	40代 <n=2100>	20.4	22.0	42.2	10.2	5.2	-	-	-	877
	50代以上 <n=1100>	28.3	23.9	43.0	3.6	1.2	-	-	-	632

さらに、「安全」を1か月間得るために出してもよいと思う金額を具体的にあげてもらいました。

「1,000～2,000円未満」(34.3%)が3割強占めています。また、「1～1,000円未満」(18.6%)、「0円(お金を出す必要はない)」(16.6%)もともに2割弱を占めています。平均は1,988円です。

《属性別》

性別に平均金額を見ると、<男性>は2,116円となっており、<女性>の1,861円を上回っています。

年代別に見ると、<10代20代>は平均金額が4,150円で突出しており、以下“30代以上”は年齢が高くなるにしたがって徐々に金額が低くなっています。

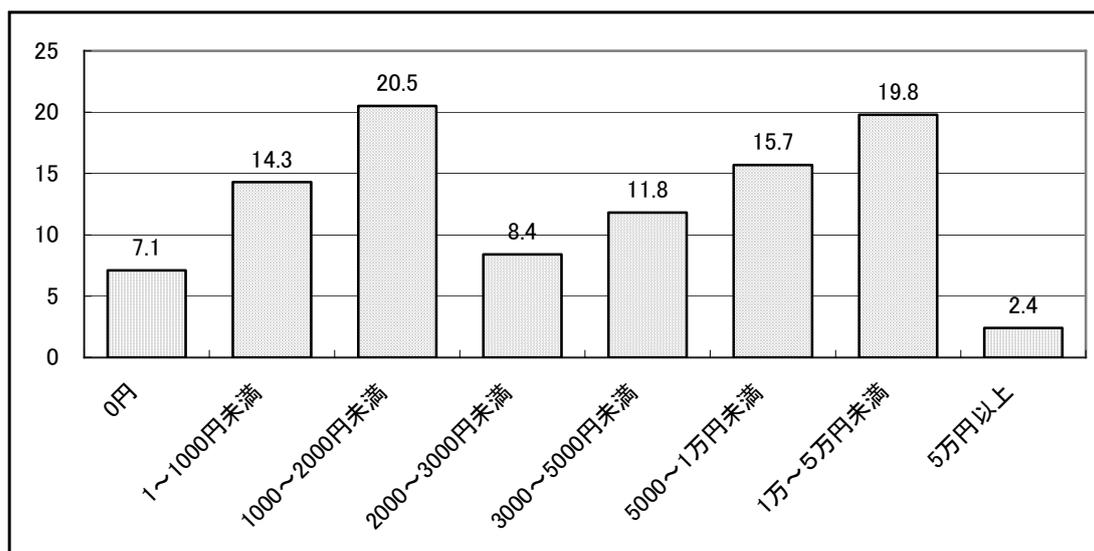
職業別に見ると、<学生・生徒>が最も高額で5,155円と突出しています。一方、<商工自営>は最も低額で1,147円です。

未婚者別に見ると、<未婚者>は2,842円で、<既婚者>の1,480円を大きく上回っています。

家族構成別に見ると、<ひとり住まい>が最も高く2,594円で、他の層を上回っています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)



5年前の調査では、「1,000~2,000円未満」(20.5%)が最も多く、以下「1~5万円未満」(19.8%)、「5,000~1万円未満」(15.7%)、「1~1,000円未満」(14.3%)、「3,000~5,000円未満」(11.8%)が続き、「0円」は7.1%、平均は5,686円でした。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、今回の調査では「0円」を含めた「2,000円未満」(5年前41.9%→今回69.5%)が28ポイント増え、「2,000円以上」が大きく減っています。そのため、平均金額が大幅に下がっています。

これをさらに年代別に比較すると、5年前の調査では<30代40代>(5,400円)がやや低いものの、<10代20代>が6,077円、<50代以上>が6,032円と年代による差はあまり大きくありませんでした。しかし、今回の調査では<10代20代>(4,150円)に比べて、<30代>(1,043円)<40代>(877円)<50代以上>(632円)はきわめて少額となっており大きな開きがあります。

■「空気・水・安全」の値段比較

以上見てきたとおり、「空気・水・安全」を比較すると、この中で最も高いお金を出してでも得たいのは「安全」(平均1,988円)、「おいしい水」(平均1,346円)、「おいしい・快適な空気」(平均1,144円)という結果です。

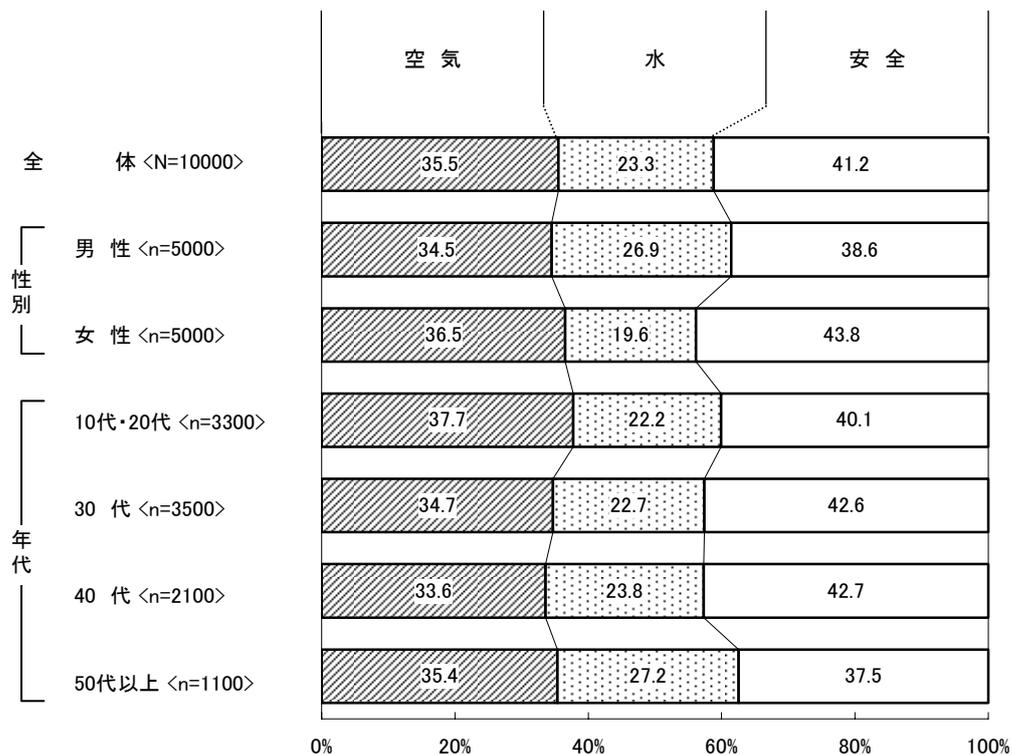
5年前の調査では、お金を出してでも最も得たいものは「安全」、「おいしい水」、「おいしい・快適な空気」と順で、この時の調査結果と今回の調査結果を比較するとその順序は同じですが、金額、ことに性・年代などの属性による金額には大きな違いとなっています。

8. 「空気・水・安全」のなかで最も心配なもの

最も心配なのは「安全」(41.2%)で、次いで「空気」(35.5%)、心配が最も少ないのは「水」(23.3%)。

◆「安全」は<女性>、「水」は<男性>が多くあげているが、「空気」(男性 34.5%、女性 36.5%)は男女差がほとんどない。

図 17. 「空気・水・安全」のなかで将来最も心配なもの



「空気・水・安全」のなかで、将来において最も心配(気がかり)なものは何か聞いてみました。

最も多いのは「安全」(41.2%)で4割強を占めています。次いで多いのは「空気」(35.5%)で3割強、最も少ないのは「水」(23.3%)で2割強という結果になっています。

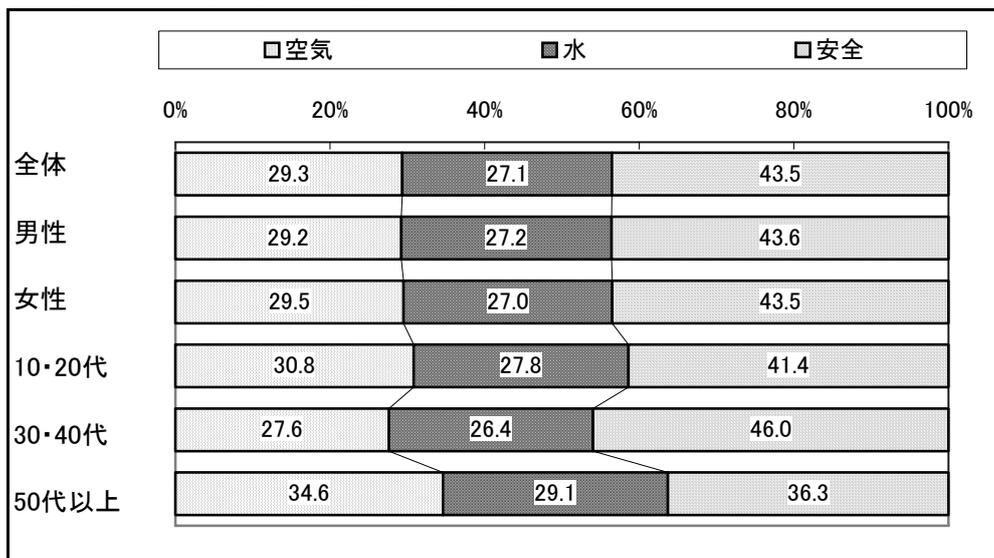
《属性別》

性別に見ると、「安全」は<男性>(38.6%)より<女性>(43.8%)、「水」は<女性>(19.6%)より<男性>(26.9%)の方が上回っていますが、「空気」(男性 34.5%、女性 36.5%)は男女差がほとんどありません。

年代別に見ると、「空気」も最も多くあげているのは<10代20代>(37.7%)で、最も少ないのは<40代>(33.6%)となっていますが、さほど大きな差ではありません。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)



5年前の調査では、「安全」(43.5%)が最も多く4割強を占めていたのに対して、「空気」(29.3%)と「水」(27.1%)はそれぞれ3割弱にとどまっていた。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「安全」「空気」「水」の順位自体はまったく同じですが、その割合は「安全」と「水」ではわずかずつ下がっているのに対して、「空気」は6ポイントほど上がっています。「空気」に対する不安感はこの5年間で増しているようです。

これをさらに性別で比較すると、5年前の調査では性別による違いはまったくみられませんでした。今回の調査では「水」は<男性>が<女性>を7ポイントほど上回っているのに対して、「安全」は<女性>が<男性>をやや上回っています。

また年代別で比較すると、5年前の調査では「空気」「水」は<50代以上>が他の年代をやや上回り、「安全」は<30代40代>が他の年代を上回っていましたが、今回の調査では「水」は<50代以上>が他の年代を上回り、「安全」は<30代><40代>が他の年代を上回っているのに対して、「空気」は年代による差はほとんどみられません。

9. 「空気・水・安全」の気がかりな点

空気・水の気がかりな点はともに“地球規模での汚染”関連の内容が上位を占める。安全では“偽装表示の相次ぐ発覚”のためか「食の安全」がトップ。

(1) 「空気」の気がかりな点

表 1. 「空気」の気がかりな点【複数回答】

順位	内 容	件数	順位	内 容	件数
1	車などの排気ガス	2,374	26	カビ	63
2	大気汚染・空気の汚染	2,069	27	光化学スモッグ	61
3	外国での大気汚染	1,041	28	湿気	60
4	二酸化炭素の増加	823	29	粉塵	44
5	地球温暖化	575	30	空気を買う時代が来るのだろうか	36
6	花粉症の悪化、引き起こす原因になる	481	31	ダニ	26
7	きれいな空気がなくなってしまうのでは	391	32	空気中の浮遊物	24
8	黄砂	306	33	ペットの臭い、毛などの汚れ	20
9	タバコの不快、受動被害	269	〃	空気のきれいな場所がなくなってしまう	20
10	臭い	267	35	密閉された部屋の臭い	12
11	空気中のほこり	223	〃	原発事故による空気汚染	12
12	有害物質、有害な化学物質	216	37	砂漠化、大地の乾燥化	10
13	空気汚染が健康被害を引き起こす原因になる	201	〃	野焼き	10
14	工場排気による大気汚染	192	〃	アスベスト	10
15	オゾン層の破壊による影響	179	40	電車内での空気の汚れ	7
16	アレルギーの悪化、引き起こす原因になる	177	41	ガス兵器	6
17	ハウスダスト	172	42	マスクがはなせない時代が来るかもしれない	5
18	空気の乾燥	134	43	エアコン内のカビ	3
19	ウイルス・細菌による空気感染	129	〃	ヒートアイランド現象	3
20	酸素量の減少	126	〃	マイナスイオンの減少	3
21	森林伐採による影響	116	46	自然の減少	2
22	喘息を悪化させる、引き起こす原因になる	97	〃	職場の空気の汚れ	2
23	部屋の空気の汚れ、よどみ	87	〃	公共施設内の空気の汚れ	2
24	ダイオキシン	71	〃	他人のせき、くしゃみ	2
25	自然破壊による汚染	70			

「空気・水・安全」それぞれの心配（気がかり）な点を具体的にあげてもらいました。

まず、『空気』について気になることでは、「車などの排気ガス」（2,374件）が最も多く、次いで「大気汚染・空気の汚染」（2,069件）の順となっており、この2項目が突出しています。以下「外国での大気汚染」（1,041件）、「二酸化炭素の増加」（823件）、「地球温暖化」（575件）などが続き、上位は“地球規模”での心配ごとが占めています。

さらに、「花粉症の悪化、花粉症を引き起こす原因になる」（481件）、「きれいな空気がなくなってしまうのでは」（391件）、「黄砂」（306件）、「タバコの不快、受動被害」（269件）、「臭い」（267件）などが続いています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)

項目	件数	項目	件数
大気汚染・空気の汚染	2162	匂い	61
車などの排気ガス	673	シックハウス(ホルムアルデヒド)	53
二酸化炭素	458	森林伐採による影響	43
春先などの花粉	320	ウイルス・細菌による空気感染	35
有害物質による汚染	150	紫外線	34
地球温暖化現象による影響	147	ゴミ焼却場からの煤煙	33
オゾン層の破壊による影響	132	緑地や緑の減少	30
工場排気による大気汚染	127	中国からの大気汚染物質の飛来	28
環境汚染による空気の汚れ	120	酸素濃度の不足	25
ダイオキシン問題	108	光化学スモッグ	23
喫煙の影響(煙・臭い)	76	不純物の増加	16
室内の埃やダニ	73	放射能汚染	12
地球的規模での空気の汚れ	70	フロンガス	11
田舎もどんどん空気が悪くなっている	69	良質な空気入手にコストがかかる	7
喘息、アレルギーなどの心配	63		

5年前の調査では、「大気汚染・空気の汚染」(2,162件)が断然多く、以下「車などの排気ガス」(673件)、「二酸化炭素」(458件)、「花粉」(320件)、「有害物質による汚染」(150件)などが続いていました。

今回の調査結果では「車などの排気ガス」が第1位となり、件数も大きく増えていきます。「大気汚染、空気の汚染」は相変わらず多く件数もあまり変わっていませんが、第3位には5年前の調査ではあまり多くなかった「外国での大気汚染」があげられています。

(2) 「水」の気がかりな点

表 2. 「水」の気がかりな点【複数回答】

順位	内 容	件数	順位	内 容	件数
1	水質劣化・汚染・汚濁	2,753	27	井戸水や地下水の汚染	116
2	地球温暖化異常気象による水不足、砂漠化	1,792	28	外国での水質汚染	101
3	水を安全に飲めなくなるのではないか	734	29	土壌汚染による水質悪化	75
4	水道水がまずい	611	30	地球温暖化による海水温度の上昇	69
5	水道水がカルキ臭い、消毒薬臭い	454	31	水道水は飲んでも大丈夫だろうか	61
6	有害物質の混入	410	32	買って飲んでいる水は本当に安全だろうか	58
7	水道水の残留塩素の安全性への不安	380	33	井戸水や地下水の枯渇	52
8	水道水は怖くて飲めない、飲んでいない	371	34	水源の汚染	50
9	河川の汚染	369	35	排水による汚染	49
10	水の汚れ	294	36	健康への悪影響	47
11	安全性の低下	266	37	森林伐採による水質自浄能力の低下	46
12	飲む水は買う時代になってしまう、買っている	261	38	水の濁り、色	44
13	海の汚れ、海洋汚染	251	39	水源の枯渇	39
14	環境破壊による水質汚染	245	〃	廃棄物、不法投棄による水質汚染	39
15	工場排水による水質汚染	222	〃	災害時の水の確保	39
16	地球温暖化による海面の上昇	206	42	農業による水質汚染	31
17	水質の悪化	179	〃	湖、池、沼の水質汚染	31
18	地球温暖化異常気象による豪雨、洪水	170	〃	大気汚染による雨の汚染	31
19	水道水を飲んでも大丈夫にして欲しい	168	45	買って飲んでいる水の高騰	25
20	生活排水による水質汚染	162	46	浄水器をつけていれば本当に安全だろうか	20
〃	不純物の混入	162	47	原発、原発事故による水質汚染	9
22	細菌類の混入	160	48	水道水は肌に悪い、荒れる	8
23	酸性雨	154	49	水道水は浄化されているのか	6
24	水道料金が低い、値上げ	141	〃	山の水の汚染	6
25	浄水器なしでは水道水は飲めない	137	〃	飲み水以外の水も買うようになるのではないか	6
26	マンションの貯水槽、水道管の汚れやさび	119			

『水』について気になることでは、「水質劣化・汚染・汚濁」（2,753 件）が最も多く、次いで「地球温暖化異常現象による水不足、砂漠化」（1,792 件）、「水を安全に飲めなくなるのではないか」（734 件）の順となっており、汚染や渇水という“地球規模での水の不安”があげられています。

次に多いのは“水道水”に対する内容で、「水道水がまずい」（611 件）、「水道水がカルキ臭い、消毒薬臭い」（454 件）、「水道水の残留塩素の安全性への不安」（380 件）、「水道水は怖くて飲めない、水道水は飲んでいない」（371 件）、「水道水を飲んでも大丈夫なようにして欲しい」（168 件）、「浄水器をつけていなければ水道水は飲めない」（137 件）、「水道水は飲んでも大丈夫だろうか」（61 件）など、このままでは水道水が飲めなくなるのではないかと危惧やもうすでに水道水は飲んでいないといった飲み水として不適切との指摘、さらに水道水を飲めるようにして欲しいなどの要望があげられています。

また、現在ペットボトルやサーバーの水を購入して飲んでいるという人は「買って飲んでいる水は本当に安全なのだろうか」（58 件）、「買って飲んでいる水が高騰しそう」（25 件）といった不安もあげています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)

項目	件数	項目	件数
水質劣化・汚染・汚濁	1244	水も買う時代になってしまう	48
水不足・断水	343	自然破壊や森林伐採の影響	42
水道水の不味さ	317	節水意識の希薄さ	42
塩素の量・残留塩素	269	ダイオキシンの	39
海・河川の汚染	264	農薬による水質汚染	33
水道水の安全性	225	生水がのめなくなる	31
有害物質混入	123	化学物質による汚染	30
水道料値上げ	123	土壌汚染等による水質汚染	22
匂い(カルキ臭)	110	発ガン性物質	21
生活排水による汚染	107	廃棄物による水源の汚染	20
産業排水による汚濁	88	綺麗な水がなくなること	20
地球温暖化による影響	84	水による食中毒	18
水資源・井戸水・地下水の枯渇	74	公害汚染	18
硫酸雨	67	水を貯めるタンクの安全性	18
浄水器がないと飲めなくなる	63	大気汚染による水の汚染	18
トリハロメタン	60	重金属	13
井戸水や地下水汚染	55	微生物による水汚染	13
細菌類の混入	53	配水管の汚れ	12
水害・洪水	52	毒物の混入	11
不純物等の混入	51	不法投棄による水質汚濁	8
環境ホルモン物質	50		

5年前の調査では、「水質劣化・汚染・汚濁」(1,244件)が圧倒的に多く、以下「水不足・断水」(343件)、「水道水の不味さ」(317件)、「塩素の量・残留塩素」(269件)、「海・河川の汚染」(264件)、「水道水の安全性」(225件)などが続いていました。

今回の調査結果を比較してもこの時の調査結果とほぼ同様の内容が上位を占めており大きくは変わっていませんが、「水不足」ということに関しては5年前の調査と比べるとその内容にやや違いが見られます。

5年前の調査では「水不足」といえば猛暑などによる降雨不足での“水不足、断水”との内容が中心でしたが、今回の調査ではそれに加え、原因として“地球規模の異常気象”を意識した降水量不足や砂漠化、それに対する別の地域での“豪雨や洪水”があげられています。さらに、森林伐採に伴う水質自浄能力低下による“井戸水や地下水の汚染”や雨水が地下に浸透しないために起きる“井戸水や地下水の枯渇”なども増えています。

そのほか、「地球温暖化による海面の上昇」(206件)、「地球温暖化による海水温度の上昇」(69件)なども今回の調査で大きく増えた内容です。

(3) 「安全」の気がかりな点

表 3. 「安全」の気がかりな点【複数回答】

順位	内 容	件数	順位	内 容	件数
1	(国内での)食の安全	1,182	21	火災	82
2	地震等の自然災害	1,068	22	外国人による犯罪	76
3	治安の悪化	942	23	企業の営利主義による安全意識の低下	71
4	環境破壊	899	24	原発、核エネルギー(事故、汚染)	59
5	凶悪犯罪	842	25	国防	42
6	子どもにまつわる安全(犯罪、誘拐、事故)	670	26	(地震等に対する)建物の強度	42
7	交通事故	638	27	核兵器の脅威	40
8	泥棒、空き巣等への防犯	474	28	異常気象	35
9	日常の事故(エスカレーター事故、転倒等)	457	29	警察は当てにならない	32
10	公共交通機関での事件、事故	412	30	突然キレる人が多い	29
11	無差別犯罪、通り魔、変質者による犯罪	302	31	ネット犯罪	24
12	犯罪の低年齢化	237	32	細菌、ウィルス	24
13	偽装表示、安全表示の信頼性	225	33	個人情報への漏洩	19
14	テロ	206	34	ガス事故	16
15	人体への害、健康を害する物質	171	35	インターネット・セキュリティ	13
16	健康の維持	170	36	銃犯罪	9
17	モラル低下によるいさかい、事故	156	37	老人等の弱者を狙った犯罪	5
18	戦争、紛争	151	38	カビ	4
19	外国製品、輸入食材	88	39	食アレルギー	3
20	製品事故(耐久年数を越えた家電製品の発火)	84			

『安全』について気になることでは、「食の安全」(1182件)が最も多く、次いで「地震等の自然災害、」(1068件)の順となっています。以下、「治安の悪化」(942件)、「環境破壊」(899件)、「凶悪犯罪」(842件)などが続いています。また、「子どもにまつわる犯罪(犯罪、連れ去り、事故など)」(670件)も多くあげられています。

< 5年前の調査結果との比較 >

(02年12月：第2回空気感調査結果より N=7341)

項目	件数	項目	件数
交通事故	800	不景気による犯罪増加	40
治安の悪化・警察力の低下	670	北朝鮮問題・拉致	39
犯罪の増加	290	原発問題	35
テロ	249	ストーカー	33
外国人犯罪の増加	169	火事	32
犯罪の凶悪化	160	理由なき殺人	57
空巢・ピッキング	154	日本の安全神話の崩壊	30
大地震	141	異常気象・天災	46
食品の安全性	123	盗難被害など	26
環境汚染	86	変質者の増加	22
犯罪の低年齢化	80	車上荒らし	15
個人情報の漏洩	77	誘拐	15
戦争	60	薬害	13
農薬汚染	59	引ったくり	11
通り魔	42		

5年前の調査では、「交通事故」(800件)が最も多く、以下「治安の悪化」(670件)、「犯罪の増加」(290件)、「テロ」(249件)、「外国人犯罪の増加」(169件)、「犯罪の凶悪化」(160件)などが続いていました。

この時の調査結果と今回の調査結果を比較すると、「食の安全」が大幅に増えていきます。これは「偽装表示、安全表示の信頼性」も含めて、今回の調査中に食品の偽装表示が多数発覚したことが大きく影響していると考えられます。また、「治安の悪化」「凶悪犯罪」「無差別犯罪、通り魔、変質者による犯罪」が増えた理由には“たまたま通りがかって被害に遭う巻き込まれ型の凶悪犯罪”が多発していたことが続いたこと、さらに、「子どもにまつわる安全(犯罪、連れ去り、事故など)」では“子どもが連れ去られて被害に遭う事件”や“エスカレーターや遊具などでの事故”が続いたことなどが考えられます。一方、犯罪に関する内容で「外国人による犯罪」がやや減っています。これはマスコミで取り上げられることが5年前より少なくなったためと考えられます。